

## 第3章

# 子どもに関わる現場関係者から見た 子どもの貧困

1. 子どもに関わる現場関係者に対する調査趣旨
2. 子どもに関わる現場関係者に対する調査結果

## 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

本章では、子どもの貧困の現状・課題について、子どもに関わる現場関係者に対する調査の結果を踏まえ、整理する。

### 1. 子どもに関わる現場関係者に対する調査趣旨

実際に職場で子どもに多く関わっている専門職（学校関係者・保育士・医療関係者等）の人々は、子どもの貧困の現状・課題を把握し、貧困の状況にある子どもたちを必要な支援につなげていく上で、キーパーソンであると考えられる。

そこで、それらの人々を対象にアンケート調査を行い、実際に現場で把握される子どもの貧困の現状や、支援の現状・課題等について把握を行った。

具体的な調査対象者については、子どもと日常的に接する保育士・学校関係者や、子どもの健康状態を把握できる医療関係者等を職務区分として設定した。詳細は下表のとおりである。

調査設計はP.9のとおりであり、531名から回答を得た。

図表56 調査対象者の職務区分

職務区分	内容
①幼稚園教諭・保育士・保健師	幼稚園教諭（公立、私立） 保育士（公立、私立） 児童福祉や母子保健の担当の保健師
②小学校関係者	校長、副校長・教頭、教諭、養護教諭、栄養教諭・栄養士、学校事務職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他学校関係者（学校用務員、図書館司書、教員補助等） ※公立小学校のみ
③中学校関係者	校長、副校長・教頭、教諭、養護教諭、栄養教諭・栄養士、学校事務職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他学校関係者（学校用務員、図書館司書、教員補助等） ※中高一貫校を除く、公立中学校のみ
④高校関係者	校長、副校長・教頭、教諭、養護教諭、栄養教諭・栄養士、学校事務職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他学校関係者（学校用務員、図書館司書、教員補助等） ※中高一貫校を除く、公立および私立高校（全日制、定時制・通信制）
⑤医療関係者	医師（小児科、産婦人科、婦人科） 歯科医師（小児歯科） 看護師（小児科、産婦人科、婦人科、小児歯科）

## 2. 子どもに関わる現場関係者に対する調査結果

### 2-1. 考察

本調査により、以下のような考察が得られた。

<子どもの貧困に対する認識> ※P.92~99参照

- 全体の9割近くが、報道等で子どもの貧困が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、子どもの貧困の問題を認識している。
- そのうち、約半数が、実際に自分の職場で貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している。
- 多摩・島しょ地域においては、報道等で子どもの貧困が取り上げられていることを見聞きしたことがある人でも、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している割合は少ない傾向にある。
- 職務区分別の傾向

#### 【小学校関係者】【中学校関係者】

実際に自分の職場で貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している割合が比較的高い傾向にある。

貧困の状況にある子どもの様子として、具体的には、服装や身なり、食事、清潔さ・衛生面に関する事等が挙げられた。また、保護者の様子として、子どもに対して無関心な傾向、保育料や集金等の支払困難に関する事等が挙げられた。

→ 小・中学校は、貧困の状況にある子どもを把握し、支援につなげるための有効な場と考えられる。

#### 【医療関係者】

実際に自分の職場で貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している割合が比較的低い傾向にある。

→ むし歯や健康・栄養状態、予防接種の実施等は、貧困の状況を把握できるポイントであると考えられ、医療関係者への啓発・周知を進めていく必要がある。

<現在、取り組んでいる支援策> ※P.100~106参照

- 組織的な取組、個人的な取組ともに、子どもへの声掛けや見守りが多く行われている。
- 全体の約4割が、貧困の子どもを把握した際に行政の支援につないでいる。また、スクールソーシャルワーカー等を中心に支援が必要な子どもへの対応等を行っている。

- 職務区分別の傾向

- 【小学校関係者】【中学校関係者】

- 気になる子どもへの声掛け・見守りや保護者へのアプローチ等の支援に取り組んでいる。具体的には、朝食の確認や保護者と密に連絡をとる等が挙げられた。

- また、スクールソーシャルワーカー等を中心に支援が必要な子どもへの対応等を行っている割合も比較的高い傾向にある。

- 小・中学校は、貧困の状況にある子どもを把握し、支援につなげるための有効な場と考えられる。

- 【幼稚園教諭・保育士・保健師】

- 幼稚園教諭・保育士・保健師といった乳幼児に関わる関係者は、スクールソーシャルワーカー等を中心に支援が必要な子どもへの対応等を行っている割合が比較的低い傾向にある。

- 幼稚園・保育園等は、小・中学校同様、貧困の状況にある子どもを把握し、早期に支援を開始するきっかけとなる有効な場と考えられるため、取組を進めていく必要がある。

<支援における課題> ※P.107~112参照

- 多摩・島しょ地域においては、保護者へのアプローチが難しい、貧困の状況にある子どもを把握しにくい（見た目からは分かりにくい等）、行政や民間の支援につなげることが難しいといった課題が多く挙げられた。

- 職務区分別の傾向

- 【幼稚園教諭・保育士・保健師】

- 行政や民間の支援につなげることが難しいと考えている割合が低い傾向にある。実際に自分の職場で貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している割合も比較的低く、子どもの貧困の課題があまり顕在化していない可能性がある。

- 【中学校関係者】【高校関係者】

- 保護者へのアプローチが難しいという課題が特に多く挙げられた。また、家庭の問題であり介入が難しいといった意見も多く挙げられた。

<行政・地域との連携の必要性> ※P.113~122参照

- 貧困の状況にある子どもを把握した場合、市役所・町村役場の担当部署と連携しているのは約半数程度にとどまり、市町村の教育委員会と連携しているのは約3割にとどまっている。

- 職務区分別の傾向

- 【小学校関係者】【中学校関係者】

- 行政や地域と連携している割合が比較的高い傾向にある。

連携の具体的な内容としては、情報提供・共有、必要に応じた相談・支援、地域と連携した声掛け・見守り等が挙げられた。

【幼稚園教諭・保育士・保健師】【高校関係者】

行政や地域と連携している割合が比較的低い傾向にある。

特に、高校関係者は、市役所・町村役場の担当部署や教育委員会等と連携している割合が少なく、基礎自治体との連携は少ない傾向にある。

<支援を行う際の有効策> ※P.123~130参照

- 多摩・島しょ地域においては、支援を行う際の有効策として、行政・地域との連携や、支援について相談できる体制の整備、行政・地域との調整を行うコーディネーターの配置が多く挙げられた。
- 貧困対策を進めていく上で、現場関係者と、行政・地域との連携推進が必要である。

2-2. 結果詳細

(1) 属性項目

● 回収結果

職務区分別の回収結果は、以下のとおり。なお、小学校関係者と中学校関係者については、公立が100%であり、高校関係者については、公立(全日制・定時制・通信制)が90.3%、私立(中高一貫校除く)が9.7%であった。

図表57 職務区分別の回収結果(再掲)

職務区分	職種	回収数	合計数
①幼稚園教諭・保育士・保健師	幼稚園教諭	52	106
	保育士	47	
	児童福祉や母子保健の担当の保健師	7	
②小学校関係者	校長	7	107
	副校長・教頭	11	
	教諭	70	
	養護教諭	7	
	栄養教諭・栄養士	6	
	スクールカウンセラー	6	
③中学校関係者	校長	5	106
	副校長・教頭	1	
	教諭	64	
	養護教諭	4	
	栄養教諭・栄養士	2	
	学校事務職員	7	
	スクールカウンセラー	6	
	スクールソーシャルワーカー	1	
	その他学校関係者(学校用務員、図書館司書、教諭補助等)	16	
④高校関係者	校長	3	103
	副校長・教頭	5	
	教諭	66	
	養護教諭	3	
	栄養教諭・栄養士	1	
	学校事務職員	13	
	スクールカウンセラー	3	
	その他学校関係者(学校用務員、図書館司書、教諭補助等)	9	
⑤医療関係者	医師(小児科、産婦人科、婦人科)	26	109
	歯科医師(小児歯科)	4	
	看護師(小児科、産婦人科、婦人科、小児歯科)	79	
合計			531

- 勤務先の自治体  
回答者の勤務先の自治体は、以下のとおり。

図表58 勤務先の自治体

	n=	東京都(多摩・島しょ地域)	東京都(23区)	神奈川県	埼玉県	千葉県
TOTAL	531	22.4	30.1	16.2	18.1	13.2
①幼稚園教諭・保育士・保健師	106	50.9	13.2	11.3	17.9	6.6
②小学校関係者	107	13.1	26.2	18.7	20.6	21.5
③中学校関係者	106	13.2	26.4	20.8	20.8	18.9
④高校関係者	103	13.6	14.6	26.2	28.2	17.5
⑤医療関係者	109	21.1	68.8	4.6	3.7	1.8

※ 回答結果の集計にあたっては、以下のとおり「TOTAL行」に対する比率の差の検定を行い、表示している。

■ 検定・ポイント差情報	
比率の差の検定	有意水準5%で高い
対TOTAL行	有意水準5%で低い

「有意水準5%」とは、統計学的に95%以上の確率で「差異がある」といえる状態を示す。次ページ以降の表示は、全体の平均値に対する職務区分別または勤務先別の数値が、有意水準5%で高い（オレンジ色）または低い（水色）といった場合を表示している。

※ サンプル数（「n=」と表記）が30未満のデータにも表示しているが、サンプル数が小さいデータに関しては参考値となるため、留意が必要である。

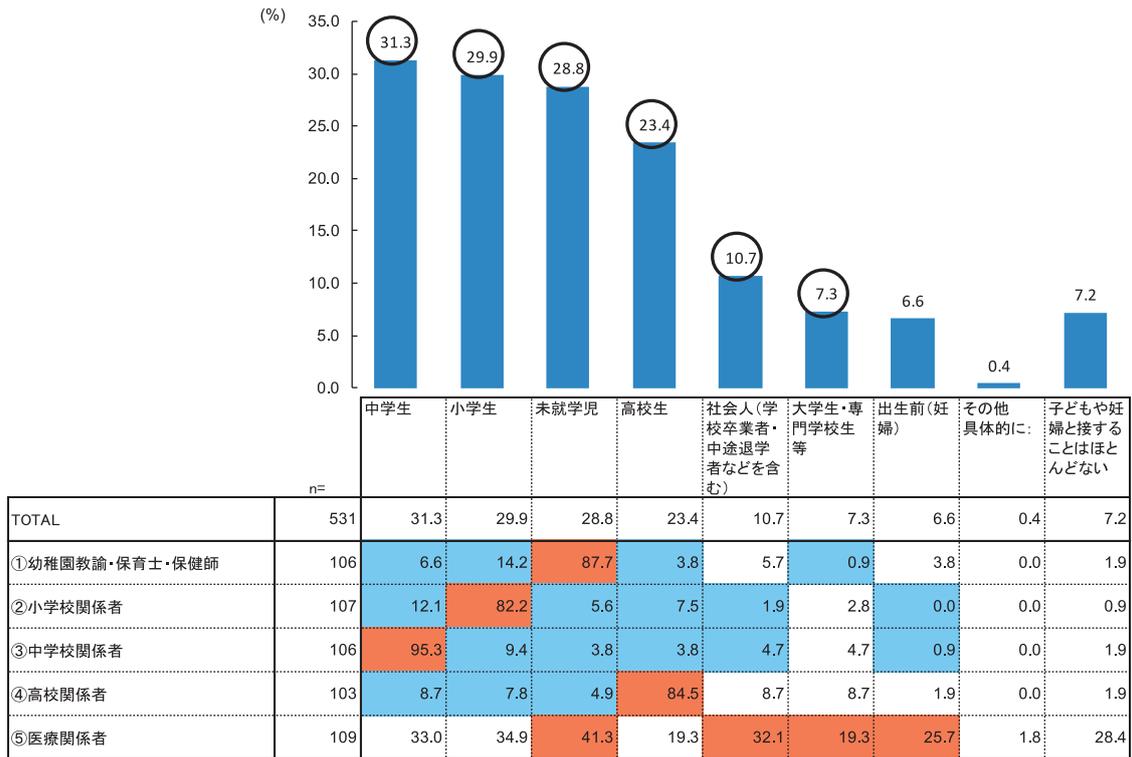
※ 自由回答におけるサンプル数（「n=」と表記）は、「特になし」「なし」等の回答を除いた有効回答数となっている。

(2) 回答結果

● 職務上、主に接する子どもの年代

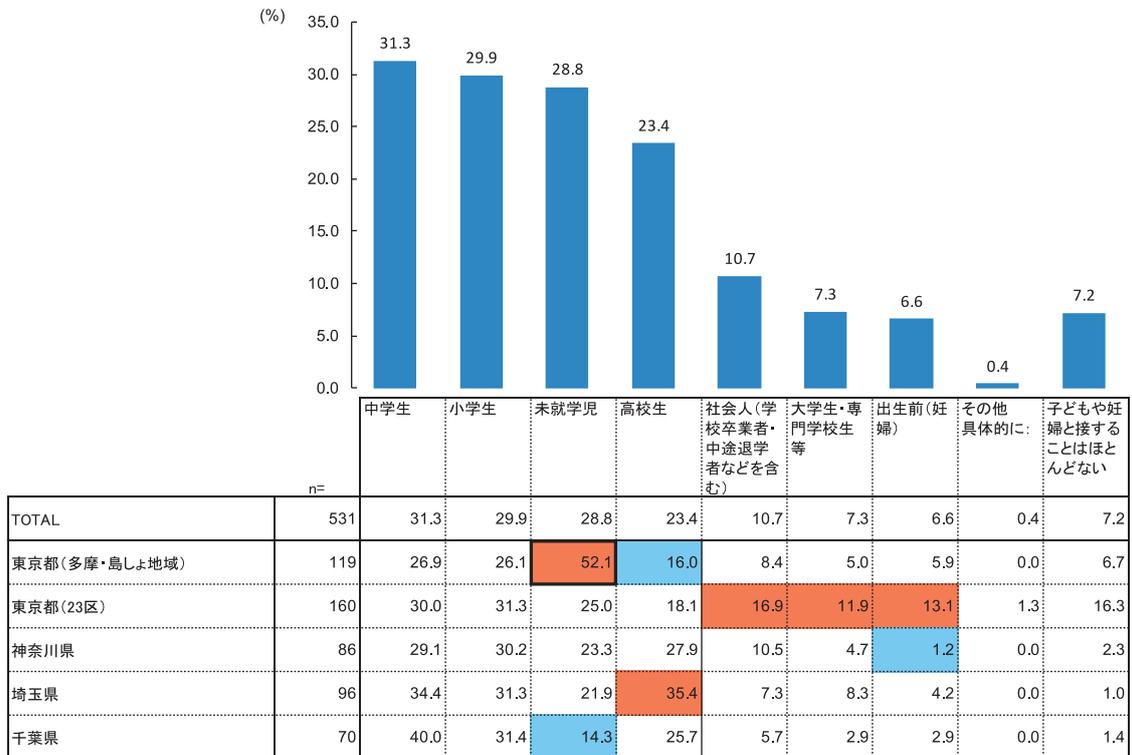
職務上、主に接する子どもの年代については、中学生31.3%、小学生29.9%、未就学児28.8%、高校生23.4%、社会人（学校卒業者・中途退学者などを含む）10.7%、大学生・専門学校生等7.3%ととなっている。

図表59 主に接する子どもの年代（複数回答）



勤務先の自治体別にみると、東京都（多摩・島しょ地域）では、主に接する子どもの年代として未就学児の割合が52.1%と高くなっている。これは、回答者の属性として「幼稚園教諭・保育士・保健師」の割合が高い（P.89、図表58参照）ためと考えられる。

図表60 主に接する子どもの年代（勤務先別）（複数回答）



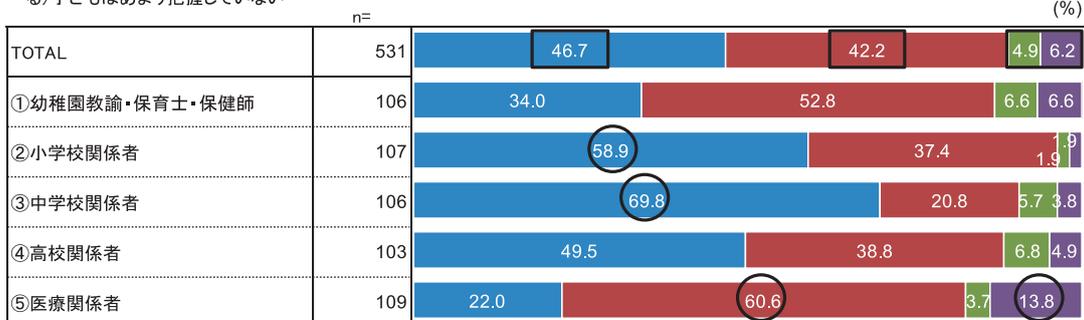
#### ● 子どもの貧困についての認識

子どもの貧困に関する認識の程度を把握するため、昨今、報道等で子どもの貧困の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあるか、また、実際に自分の職場で貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握しているかを尋ねた。「見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない」が42.2%、「見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない」が6.2%となっている。見聞きしたことがあるか否かについては、見聞きしたことがある人の方が多く、また、実際に自分の職場で把握しているか否かについては、約半数ずつとなっている。

職務区分別にみると、小学校関係者の58.9%、中学校関係者の69.8%が「見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」と回答している。また、医療関係者では「見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない」が60.6%、「見聞きしたことがなく、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない」が13.8%となっており、TOTAL（全体）と比較して実際に自分の職場で把握していない割合が高い。

図表61 子どもの貧困についての認識（単一回答）

- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもを把握している
- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場では、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもはあまり把握していない
- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことはなかったが、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもを把握している
- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがなく、実際に自分の職場では、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもはあまり把握していない



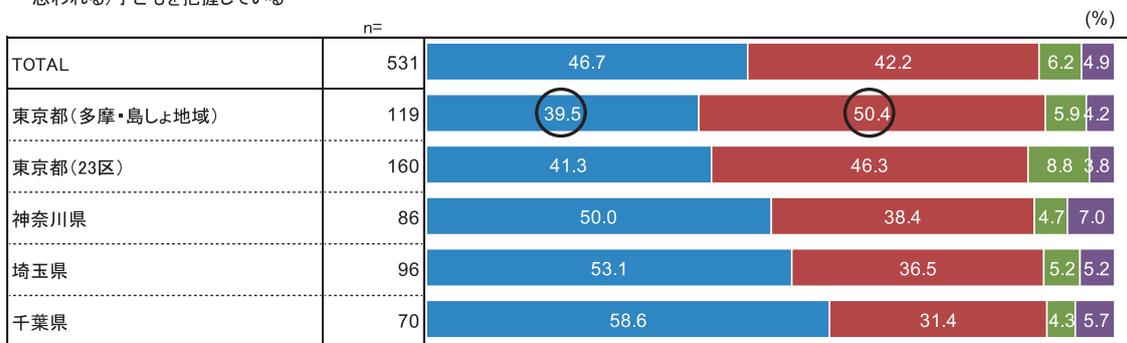
	n	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもを把握している	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場では、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもはあまり把握していない	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことはなかったが、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもを把握している	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがなく、実際に自分の職場では、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもはあまり把握していない
TOTAL	531	46.7	42.2	4.9	6.2
①幼稚園教諭・保育士・保健師	106	34.0	52.8	6.6	6.6
②小学校関係者	107	58.9	37.4	1.9	1.9
③中学校関係者	106	69.8	20.8	5.7	3.8
④高校関係者	103	49.5	38.8	6.8	4.9
⑤医療関係者	109	22.0	60.6	3.7	13.8

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

勤務先の自治体別にみると、東京都（多摩・島しょ地域）では、「見聞きしたことがあり、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」が39.5%、「見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない」が50.4%となっている。子どもの貧困の問題を見聞きしたことがあっても、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している割合は低い傾向にある。

図表62 子どもの貧困についての認識（勤務先別）（単一回答）

- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している
- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない
- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがなく、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない
- 「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことはなかったが、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している



	n=	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあるが、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがなく、実際に自分の職場では、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもはあまり把握していない	「子どもの貧困」の問題が取り上げられていることを見聞きしたことはなかったが、実際に自分の職場でも、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している
TOTAL	531	46.7	42.2	6.2	4.9
東京都(多摩・島しょ地域)	119	39.5	50.4	5.9	4.2
東京都(23区)	160	41.3	46.3	8.8	3.8
神奈川県	86	50.0	38.4	4.7	7.0
埼玉県	96	53.1	36.5	5.2	5.2
千葉県	70	58.6	31.4	4.3	5.7

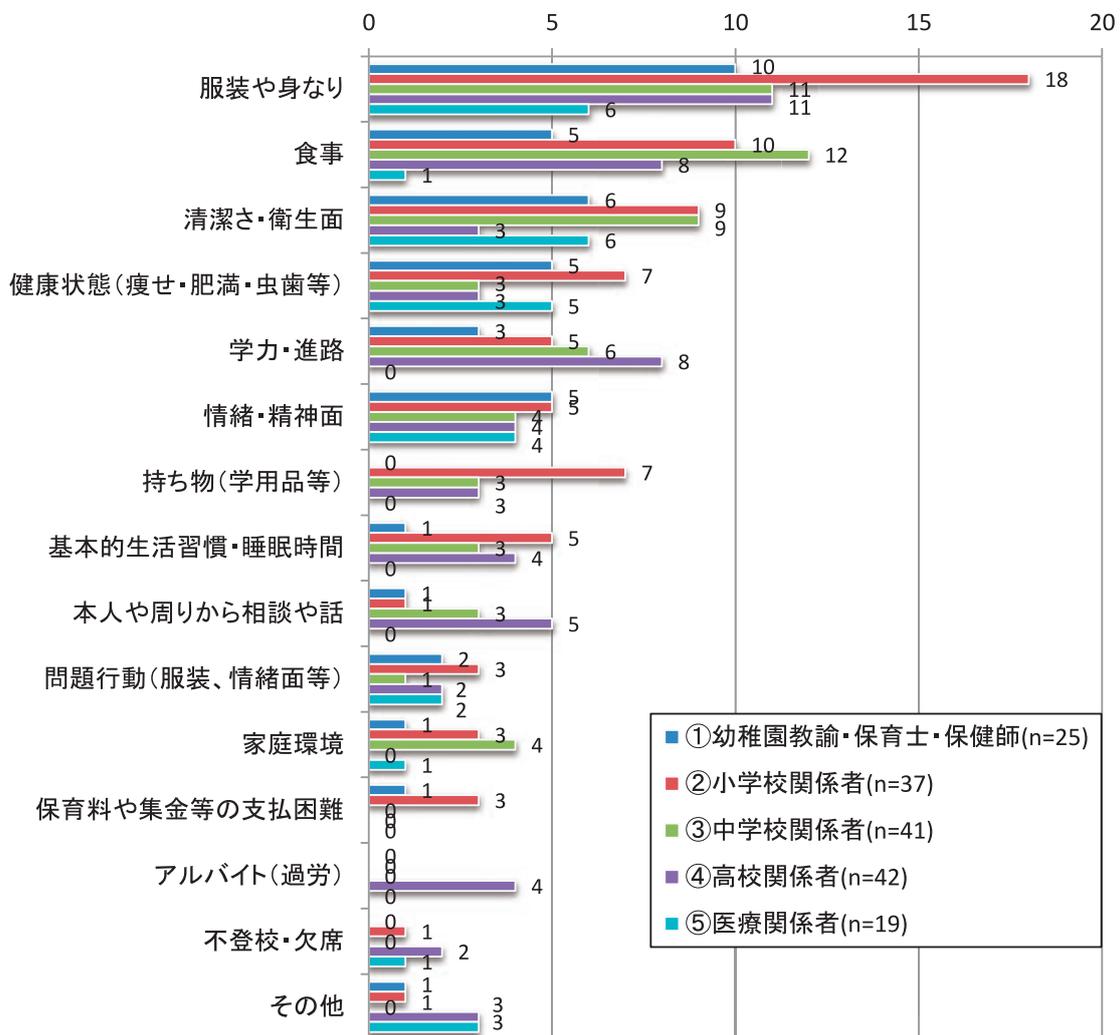
● 貧困の状況を感じる具体的な様子や問題

子どものどのような様子や問題に、貧困の状況を感じるか、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

全体として「服装や身なり」に関する事項が多く挙げられ、次いで「食事」、「清潔さ・衛生面」等に関する事項が挙げられている。「服装や身なり」に関する事項は「小学校関係者」で多く挙げられている。「食事」や「清潔さ・衛生面」に関する事項は「小学校関係者」と「中学校関係者」が多くなっている。

また、「学力・進路」に関する事項が「高校関係者」で多く挙げられている。

図表63 貧困の状況を感じる子どもの様子や問題（自由回答を分類）



### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

子どものどのような様子や問題に、貧困の状況を感じるか、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

図表64 貧困の状況を感じる子どもの様子や問題（特徴的な自由回答の例示）

職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎日のように同じ洋服を着ている。常にお腹を空かせている。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 服が洗濯されていない。風呂に入っていないようにおいがする。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 給食をエンドレスでおかわりするけど、痩せている。朝ごはんや夕飯をたべてないことはひた隠しにする。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 満足な食事がとれていないのかお昼ご飯になるとガツガツと丸のみ状態で食べている。苛立っていることが多い。(50代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 虫歯が多い。(40代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 同学年の子の中で言動が幼い。寝不足気味。(40代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
小学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お風呂に入っていない様子。頭がくさい。(20代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 幼児期の経験の少なさ。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 学力が低い。学用品がないことは日常。欠席しがち。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 洗っていない服を着ている。情緒面で落ち着かないとものや人にあたる。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 朝食が用意されていない。衣服が洗濯されず、汚れているのを着ている。(50代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 集金が遅れる。(50代男性、千葉県勤務)</li> </ul>
中学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情緒が不安定、学力が低い。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 身だしなみに気を使わず、着るものがきれいでない。(60代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 明らかな前歯のむし歯の放置、お弁当忘れが多い。洗濯していない服を続けて着ている。(30代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 朝食欠食、保護者の遅い帰宅。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● むし歯を何本も持っている。(30代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 夏休み等の長期休暇中の食事の問題、給食でしかちゃんと食事が取れない等。(60代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 学習用具がそろわない。(20代男性、千葉県勤務)</li> <li>● ワイシャツが毎日洗ってなくて汚い。給食だけしか食べていないので、みんなで分け合わないなど。(40代男性、千葉県勤務)</li> <li>● 親が仕事で必死なのか基本的な生活習慣、躰がなされておらず、成績も</li> </ul>

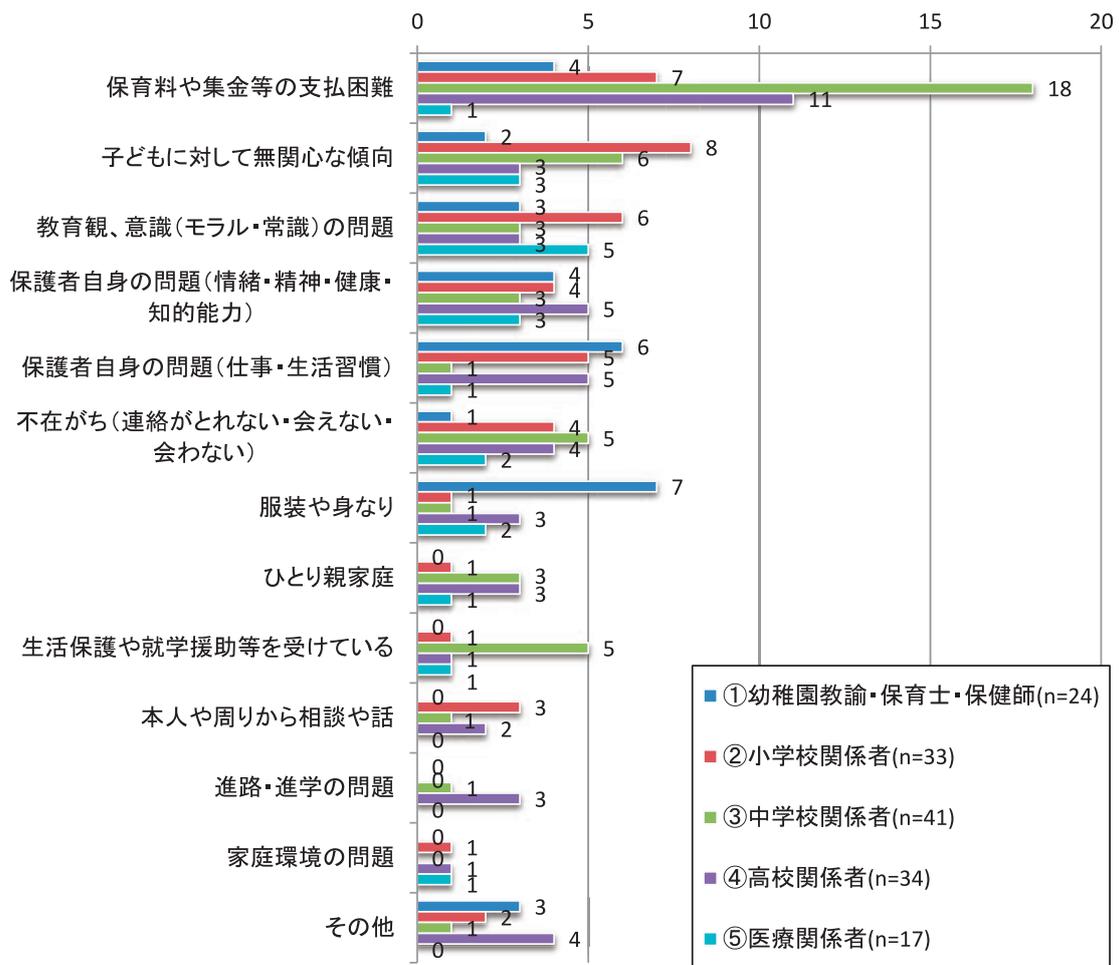
職務 区分	内容
	<p>あまり良くない生徒が多い（頭が良くない訳ではないと思う。集中できていない気がする）。（40代女性、千葉県勤務）</p>
<p>高校 関係者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要なものを揃えるのがきつい。（50代男性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務）</li> <li>● 虫歯治療が進まず、遠足の昼食で買うことができない（周りの生徒から一部分けてもらっていた）。（30代男性、東京都（23区）勤務）</li> <li>● アルバイトが忙しく、居眠りが多い。教科書代や修学旅行代など、自分で支払いをしている。（20代女性、神奈川県勤務）</li> <li>● 奨学金希望者が多数いる。（50代男性、神奈川県勤務）</li> <li>● 部活の試合に行く電車賃がない。（40代男性、埼玉県勤務）</li> <li>● 昼食が用意できない。定期券が購入できず自転車で遠くから来ている。（40代女性、埼玉県勤務）</li> <li>● 食事をきちんととってない。部活をアルバイトをするためにやめてしまう。（50代男性、埼玉県勤務）</li> <li>● 経済的理由により、進学できない。（50代女性、千葉県勤務）</li> </ul>
<p>医療 関係者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者が忙しい子どもの口腔衛生状態は不良であることが多く、保護者が付き添えないので、通院も難しい。（30代女性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務）</li> <li>● 予防接種をうけていない。（30代女性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務）</li> <li>● 周囲を気にしすぎる子、気にしなさすぎる子など、情緒が年齢相応と感しない。（20代女性、東京都（23区）勤務）</li> <li>● 身に付けているものがボロボロ。お風呂に入っていない。言葉の発達が遅れている。（30代女性、東京都（23区）勤務）</li> <li>● 小児科受診時の服装や臭い、不登校やいじめにあっているなど。（30代女性、東京都（23区）勤務）</li> <li>● 着衣の乱れ、汚れがひどい。（40代男性、東京都（23区）勤務）</li> </ul>

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

同様に、保護者のどのような様子や問題に、貧困の状況を感じるか、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「保育料や集金等の支払困難」や「子どもに対して無関心な傾向」に関する事項等が上位に挙げられている。「保育料や集金等の支払困難」に関する事項については、「中学校関係者」で多く、「子どもに対して無関心な傾向」に関する事項については、「小学校関係者」、「中学校関係者」で多く挙げられた。

図表65 貧困の状況を感じる保護者の様子や問題（自由回答を分類）



保護者のどのような様子や問題に、貧困の状況を感じるか、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

図表66 貧困の状況を感じる保護者の様子や問題（特徴的な自由回答の例示）

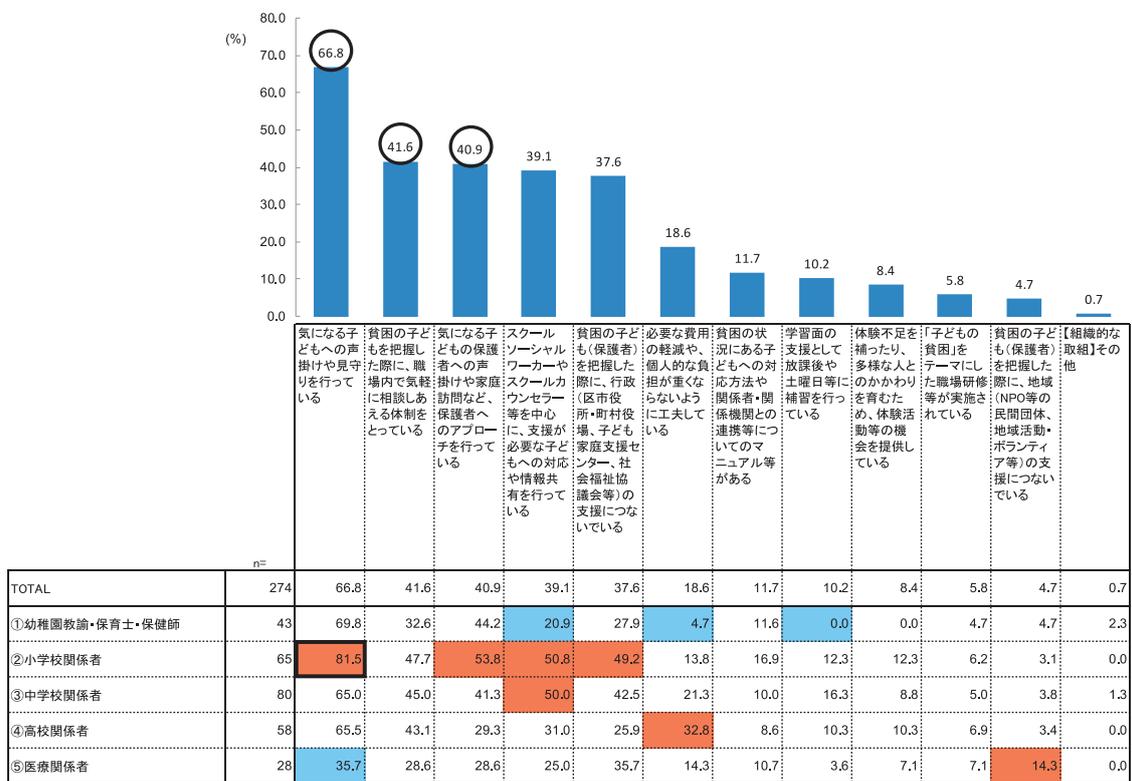
職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 忙しくてイライラしている。余裕がない様子。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 服装の乱れと子どもに対して無関心な態度。(50代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 入園金を支払ったが、保育用品代を準備できず、入園に至っていない家庭がある。(50代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 指摘しても歯医者に行かせない。(40代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 保育料の滞納、仕事の掛け持ちで生活リズムが乱れている。(40代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
小学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもに関わる時間が短い。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 前任校の話。子どもの食費に充てるため自身は食わず極度のやせ、働きづめで倒れるなど。(30代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 自分にはお金をかけるが子どものことに関して無関心な保護者がいる。(50代男性、神奈川県勤務)</li> <li>● 諸経費未納、母子または父子家庭が多い、連絡が取れない。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 学納金が払えない。(20代女性、千葉県勤務)</li> </ul>
中学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭と連絡がつかない、保護者会に来ない。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 様々なことに余裕がない。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 給食費や修学旅行拒否等。(50代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 要保護、準要保護家庭が多く、教材費等の未納が多い。(50代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 学費滞納がある、就学援助を受けている家庭が多い。(30代女性、神奈川県勤務)</li> </ul>
高校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭崩壊により生徒が思うような進路活動ができない。奨学支援金の書類に一筆サインができない。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 授業料未払い、連絡が取れない。(20代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 精神疾患をかかえており、子どもの様子を把握できない。子どもを置いて家を長期間留守にしている。(40代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 仕事を掛け持ちしていて子どもに手が回らない。(40代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
医療 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困の状況にある子どもの親は精神的な疾患をかかえていることが多い。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 面会に来ない、医療費未納。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 子どもに対してあまり関心を示さない。(40代男性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

- 貧困の状況にある子ども（またはその保護者）に対して、取り組んでいる支援策  
 貧困の状況にある子ども（またはその保護者）に対して、取り組んでいる支援策は、【組織的な取組】としては、「気になる子どもへの声掛けや見守りをやっている」が66.8%と最も高く、次いで「貧困の子どもを把握した際に、職場内で気軽に相談しあえる体制をとっている」が41.6%、「気になる子どもの保護者への声掛けや家庭訪問など、保護者へのアプローチを行っている」が40.9%となっている。

職務区別にみると、小学校関係者の81.5%が「気になる子どもへの声掛けや見守りをやっている」と回答しており、TOTAL（全体）と比較して高くなっている。小学校関係者については、全体的に有意水準5%以上で高い項目が多く、比較的、支援に取り組んでいる傾向がみられる。

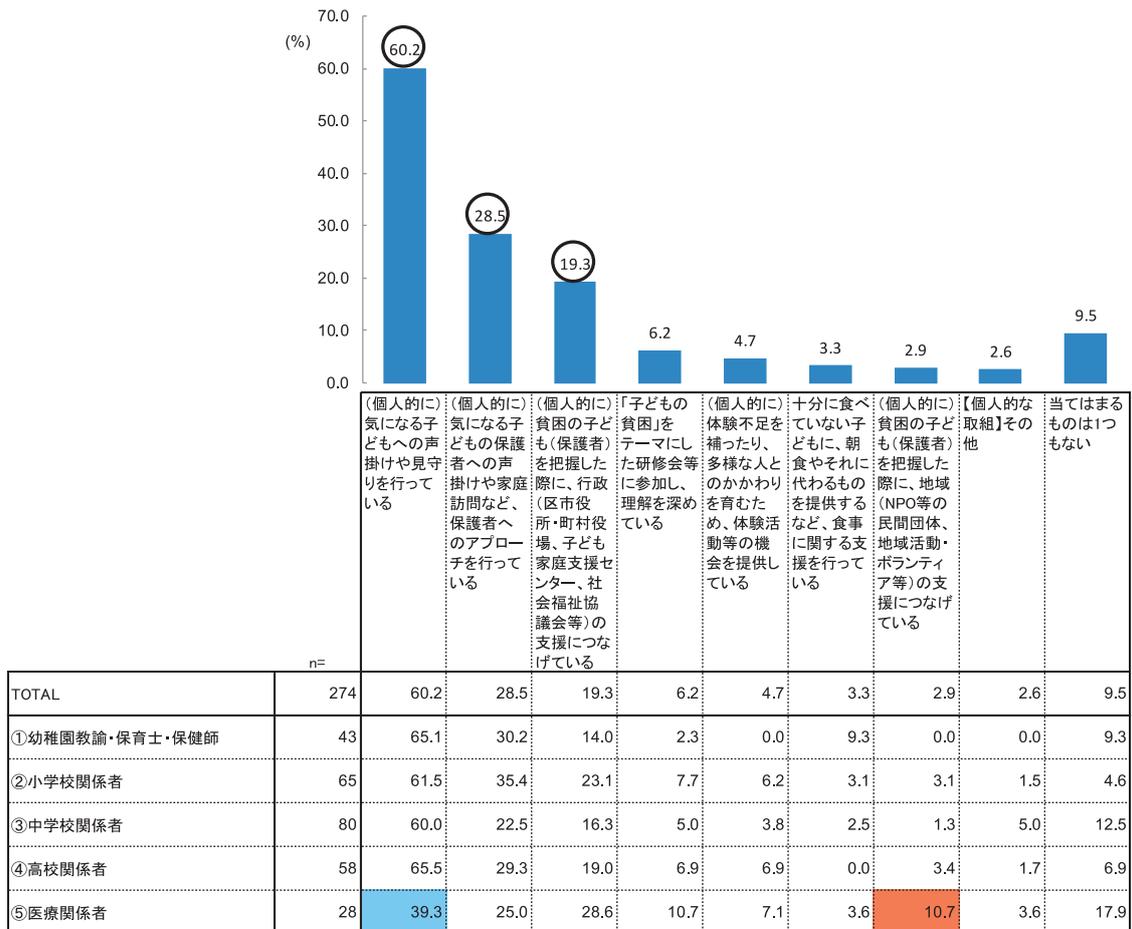
図表67 取り組んでいる支援策【組織的な取組】（複数回答）



※ ベース：「実際に自分の職場で、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」と回答

また、【個人的な取組】としては、「(個人的に) 気になる子どもへの声掛けや見守りを行っている」が60.2%と最も高く、次いで「(個人的に) 気になる子どもの保護者への声掛けや家庭訪問など、保護者へのアプローチを行っている」が28.5%、「(個人的に) 貧困の子ども(保護者)を把握した際に、行政(区市役所・町村役場、子ども家庭支援センター、社会福祉協議会等)の支援につなげている」が19.3%となっている。

図表68 取り組んでいる支援策【個人的な取組】(複数回答)

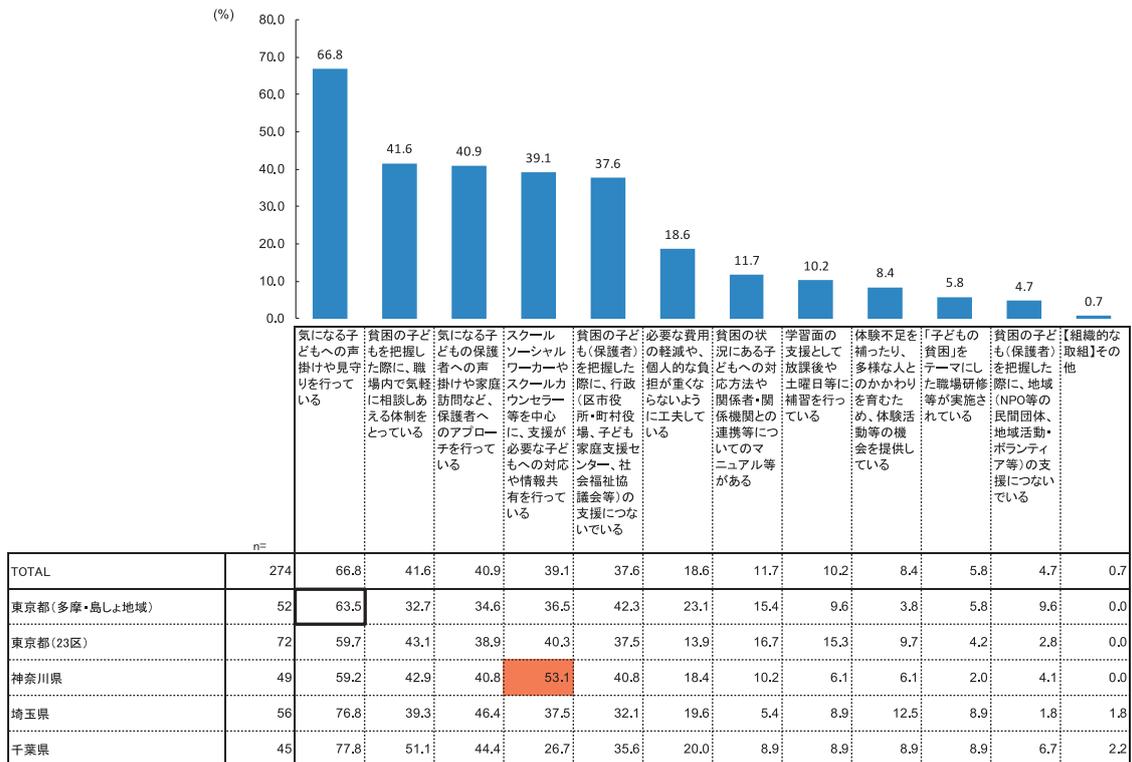


※ ベース : 「実際に自分の職場で、貧困の状況にある(またはあると思われる)子どもを把握している」と回答

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

勤務先の自治体別にみると、東京都（多摩・島しょ地域）では、【組織的な取組】として、「気になる子どもへの声掛けや見守りを行っている」が63.5%と最も高くなっている。

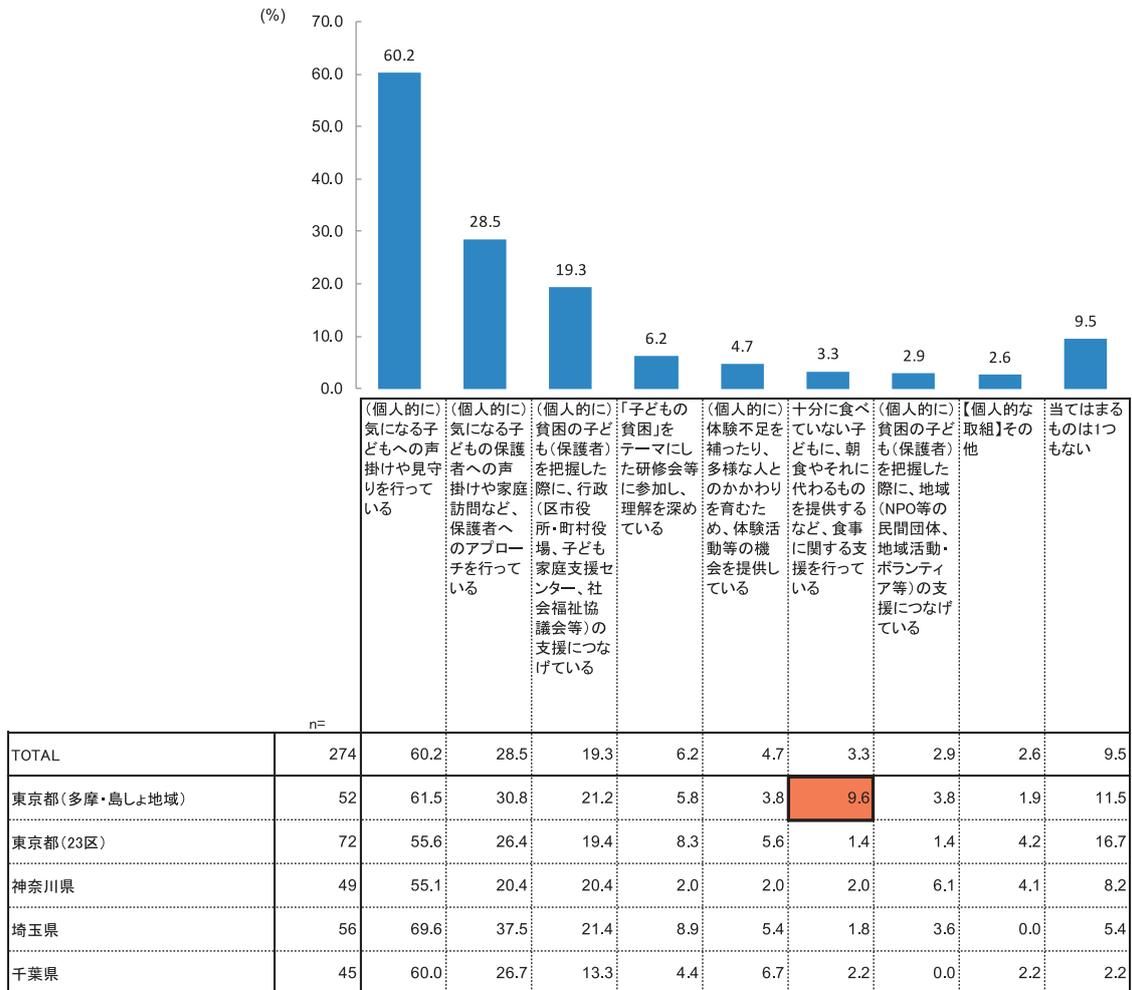
図表69 取り組んでいる支援策【組織的な取組】（勤務先別）（複数回答）



※ ベース：「実際に自分の職場で、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」と回答

また、【個人的な取組】として、東京都（多摩・島しょ地域）では、「十分に食べていない子どもに、朝食やそれに代わるものを提供するなど、食事に関する支援を行っている」が9.6%と、TOTAL（全体）と比較して高くなっている。

図表70 取り組んでいる支援策【個人的な取組】（勤務先別）（複数回答）



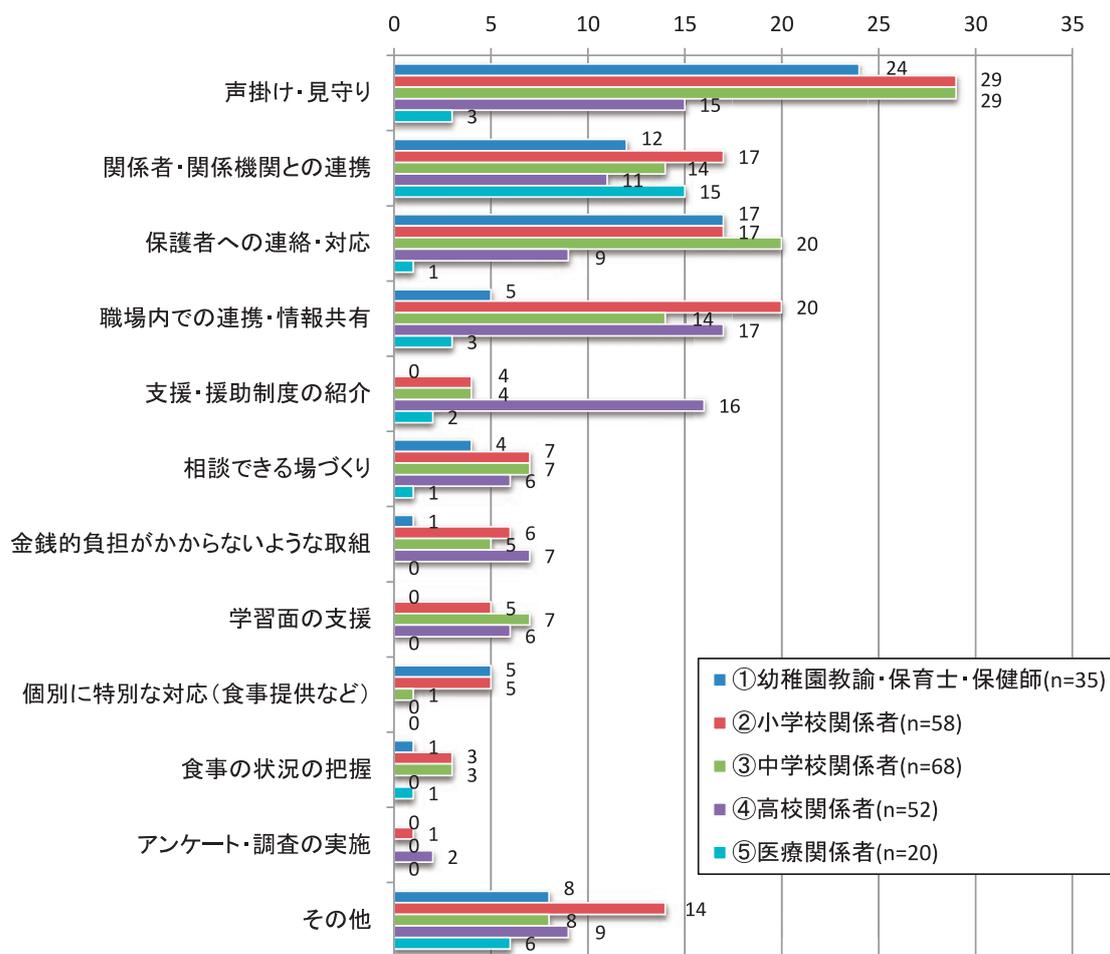
※ ベース：「実際に自分の職場で、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」と回答

● 支援策の具体的内容

支援策の具体的内容について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「声掛け・見守り」に関する事項が最も多く、次いで「関係者・関係機関との連携」、「保護者への連絡・対応」と続く。「声掛け・見守り」に関する事項は、「小学校関係者」と「中学校関係者」で多い。また、奨学金制度等「支援・援助制度の紹介」に関する事項は、「高校関係者」で多く挙げられている。

図表71 支援策の具体的内容（自由回答を分類）



支援策の具体的内容について、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

図表72 支援策の具体的内容（特徴的な自由回答の例示）

職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シャワーをし、体を清潔にしている。(30代女性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務)</li> <li>● 連絡手帳を使って、食事の内容や量を把握。(40代女性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務)</li> <li>● オムツ替えや着替え時などに身体の状態を把握。(40代女性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務)</li> <li>● 親と子どもそれぞれに声かけ。(40代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 保護者が困っている事を話せる場を設ける。(30代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 支援員との連携。(30代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 小学校との連携。(40代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 健康状態などを把握するため、家庭訪問を実施。(30代女性、千葉県勤務)</li> </ul>
小学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の変化について教員間で情報共有をこまめにする。(20代女性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務)</li> <li>● 貸し出せる文具を置いておく。(30代男性、東京都（23区）勤務)</li> <li>● スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報共有。(30代女性、東京都（23区）勤務)</li> <li>● 個別に対応する時間をとり、話し相手になった。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 養護教諭、栄養教諭と相談(空腹時の補食などについて)。(30代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 毎日の声かけ、朝食の有無の確認。(30代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 民生委員の方との話し合い。(40代男性、神奈川県勤務)</li> <li>● 児童相談所とのカンファレンス。(50代男性、神奈川県勤務)</li> <li>● 保護者と密に連絡を取り、状況をわかってもらう。(50代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● スクールカウンセラーと声かけをしている。(50代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 着替えの時に、様子を見る。(60代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 生活保護の申請について情報提供。(60代男性、千葉県勤務)</li> <li>● 給食の時間に食事の状況を把握する。(60代男性、千葉県勤務)</li> </ul>
中学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 放課後の質問教室、長期休暇中の補習、サンプルのワークブックの配布など、学習面での支援 (50代男性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務)</li> <li>● 副教材のプリント化。(30代男性、東京都（23区）勤務)</li> <li>● 区役所福祉課等の連携。(50代男性、東京都（23区）勤務)</li> <li>● スクールソーシャルワーカー、学級担任を含めたケース会議の実施。(30代女性、神奈川県勤務)</li> </ul>

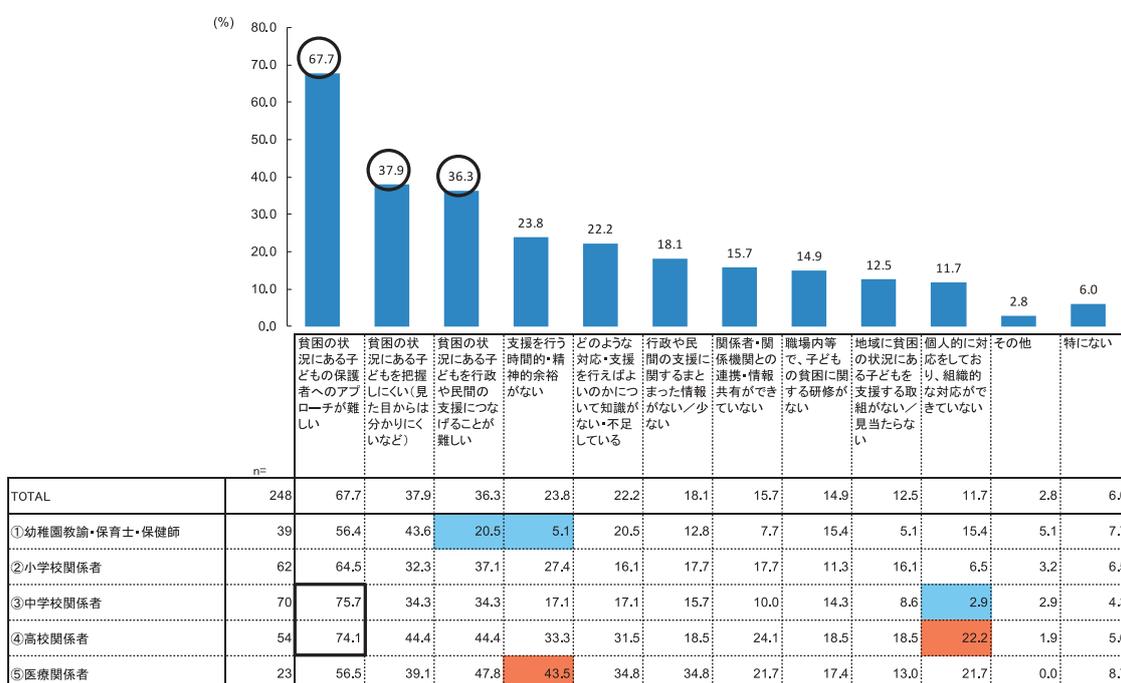
職務区分	内容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉部局による学習支援を活用させている。(50代男性、神奈川県勤務)</li> <li>● 家庭訪問による状況把握。(50代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 子どもと、相談員、カウンセラーとの面会を実施。(60代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 情緒的な問題に関して、スクールカウンセラーと相談。(30代女性、千葉県勤務)</li> <li>● 親に学校の連絡を密に入れる。(40代男性、千葉県勤務)</li> <li>● 表情に陰りがあるときにはそれとなく声をかけて励ます。(50代男性、千葉県勤務)</li> </ul>
高校関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上司に報告し、職場で共通の話題にしている。(50代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 行政機関等との連携。(50代男性、神奈川県勤務)</li> <li>● 巡回支援員と連携し、地域の中における支援策を練る。(20代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 放課後に学習サポートを行う。(20代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 普段の生活観察。(40代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 積極的に声をかけている。(40代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 必ず職場で管理職やスクールカウンセラーと情報を共有し、必要な場合には、職員全体で情報を共有、児童相談所等への協力依頼を行っている。(40代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 応募できそうな奨学金等を紹介する。(50代男性、千葉県勤務)</li> <li>● 担任に限らず、校内で相談できる場所や機会を設ける。(50代女性、千葉県勤務)</li> <li>● 生徒や保護者に対する面談等を実施する。(50代女性、千葉県勤務)</li> </ul>
医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活保護が受けられるようにソーシャルワーカーを通し行政に連絡。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 病棟での食事内容を検討。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 専門職向けのメーリングで事例を情報共有する。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 子ども家庭支援センターとのケース会議。(40代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 児童相談所や保健師との連携。(40代女性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>

● 貧困の状況にある子どもへの支援における課題

貧困の状況にある子どもへの支援を行っていく上での課題として、「貧困の状況にある子どもの保護者へのアプローチが難しい」が67.7%と最も高く、次いで「貧困の状況にある子どもを把握しにくい（見た目からは分かりにくいなど）」が37.9%、「貧困の状況にある子どもを行政や民間の支援につなげるのが難しい」が36.3%となっている。

職務区分別にみると、中学校関係者、高校関係者では「貧困の状況にある子どもの保護者へのアプローチが難しい」と感じている人がそれぞれ7割を超えている。

図表73 貧困の状況にある子どもへの支援における課題（複数回答）

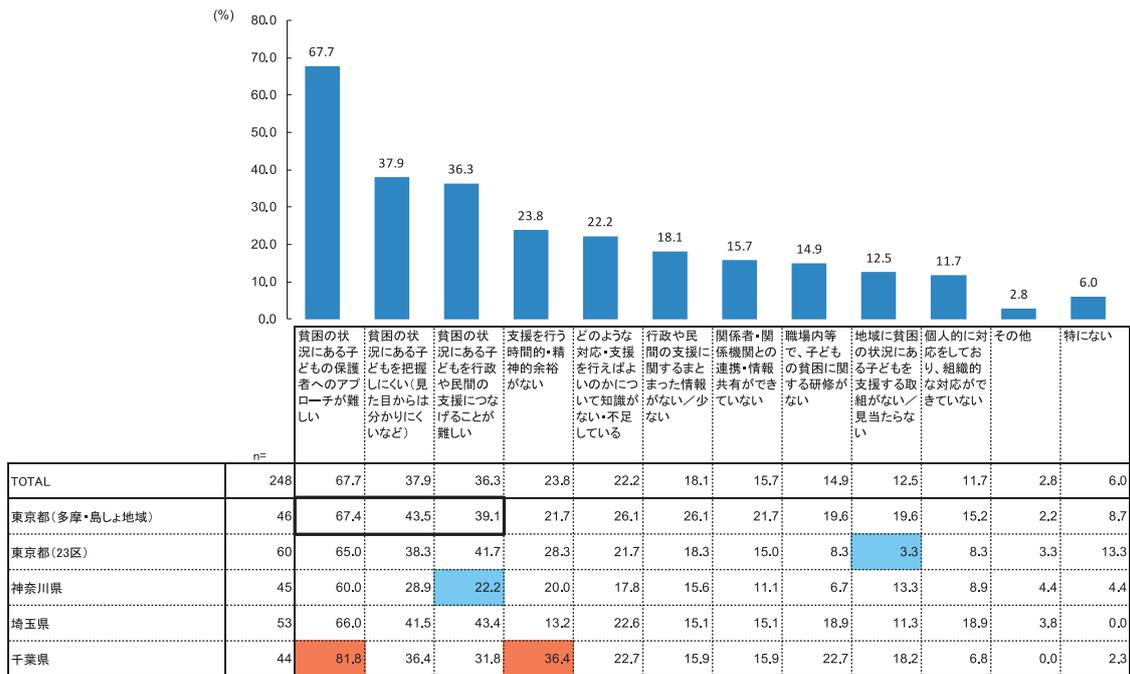


※ ベース：「『子どもの貧困』の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場で、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」と回答

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

勤務先の自治体別にみると、東京都（多摩・島しょ地域）では、「貧困の状況にある子どもの保護者へのアプローチが難しい」（67.4%）、「貧困の状況にある子どもを把握しにくい（見た目からは分かりにくいなど）」（43.5%）、「貧困の状況にある子どもを行政や民間の支援につなげることが難しい」（39.1%）といった課題が上位に挙げられた。

図表74 貧困の状況にある子どもへの支援における課題（勤務先別）（複数回答）

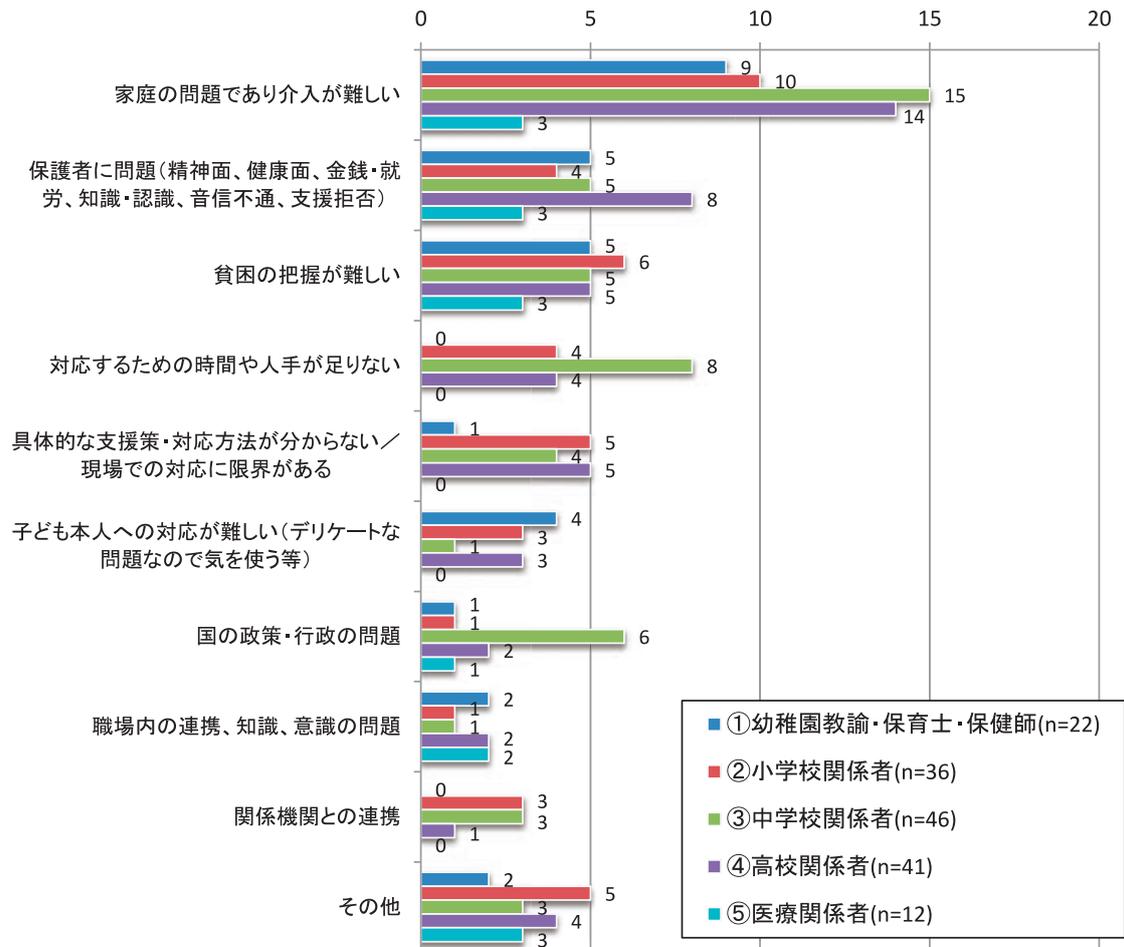


※ ベース：『子どもの貧困』の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場で、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握していると回答

貧困の状況にある子どもへの支援を行っていく上で、日ごろ感じている課題について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「家庭の問題であり介入が難しい」に関する事項が最も多く、「保護者に問題」、「貧困の把握が難しい」と続く。「家庭の問題であり介入が難しい」に関する事項については、「中学校関係者」と「高校関係者」で多く挙げられている。

図表75 子どもへの支援を行っていく上で感じている課題（自由回答を分類）



### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

貧困の状況にある子どもへの支援を行っていく上で、日ごろ感じている課題について、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

図表76 子どもへの支援を行っていく上で感じている課題（特徴的な自由回答の例示）

職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プライバシーの問題が大きいいため介入するのは難しい。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 見た目では分かりにくい子のケア。見た目だけではなく言動の微妙な変化などにも注意が必要だと感じる。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 朝食を出してあげたいが、給食費からは出せず、個人的に食べさせることでも問題が起きる。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 問題は感じて、家庭内に立ち入ることは難しい場合も多い。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 気づいた自己判断をどう上司等に伝えていくか、また、本人の意識やプライドをきずつけないか、悩む。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 保護者対応がとにかく難しいと感じる。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 母子家庭で子どもが病気になり、母親が仕事を休まなければならない時など、病児保育がもっと身近にあり利用しやすければ、母親が仕事を休まずに収入を得られると思うが、なかなか難しい状態だと思う。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 子どもは大きくなるほど、貧困をかくすので、支援が困難。家族内が貧困なのか、子どもだけが貧困なのか、判別しにくい。(40代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 実際には、どの程度の貧困なのか把握できない。滞納金があっても他に使っている事もあり、保護者の金銭感覚を修正するのは難しい。(40代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
小学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就学援助等を知らない保護者もいる。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 保護者にどのように伝えてよいか悩む。(20代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 配慮して支援を行っていかないと、本人を傷つけてしまうことも考えられるのでとても気を使う。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 支援にあたる行政機関の職員が少ない。(50代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 学習面や本人が抱えている問題だけでなく、保護者も情緒的に安定しないケースが多く、個々の対応が難しい。関係機関との連携もスムーズにいく場合と停滞する場合の差が激しい。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 担任であれば、掌握しやすいものの、個人情報の壁がある。就学中に保</li> </ul>

職務区分	内容
	<p>護者から離婚などの申し出があると、経済的なことも聞ける。以前勤務した所は、6割が援助家庭であり、保健室と管理職と連携をしていた。(60代女性、埼玉県勤務)</p>
<p>中学校関係者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学年内で情報は共有しているものの、具体的な支援に関する知識に乏しく、またセンシティブな問題でもあるため、提案がしづらい。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 援助を受けている保護者が浪費してしまう場合、子どもの学習に必要な資金を優先させて差し引いて渡すなど使い道にも役所が深く指導してもいいのでは?と感ずることがある。(20代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 保護者側へのアプローチはとても難しい。諸会費納入のお願いを子どもに配布するのは心苦しい。(30代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 貧困によりどのような問題が起きるか、どういった対策が必要か、職場全体で共通理解ができていないと感ずる。研修など設けるのがよいと思う。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 子どもや保護者からの訴えがない限り、家庭の事情に踏み込みにくい。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 現場の職員に求められる要求(国や県から、保護者や地域から、この両方から)が多過ぎ、1つの課題に費やせる時間と体力、人員が足りない。(30代男性、千葉県勤務)</li> <li>● ネグレクトと思われる場面などの見極めが難しい。家族でスマートフォンを持っていて本当に貧困なのかと思ってしまうケースがある。(50代男性、千葉県勤務)</li> </ul>
<p>高校関係者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者との意思の疎通(言語の壁がある場合もある)。(50代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● どのくらい学校として支援できるかがわからない。スクールソーシャルワーカーと繋ぐにも保護者の許可が必要なため、踏み込むことが難しい。(20代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 貧困状況について諦めてしまっている子ども及び保護者が多く、貧困を改善しようとしなないため、こちらから支援を提供することが難しい。また、修学旅行に参加できない等、感動体験が欠如してしまう。(20代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 授業料の無償化によって、家庭状況の把握がしにくくなった(以前は、入学時に減免措置の書類を配り家計の厳しいところは必ず把握できた)。(50代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 高校生になると自分で稼ぎ生活をしていることと、あまり家庭に関わられたくないようなので、様子を見ていくしかない。(50代男性、千葉県勤務)</li> <li>● 貧困はプライバシーに関わる問題でもあり、保護者のプライド等もあって、扱いが非常に難しい。(50代女性、千葉県勤務)</li> </ul>

職務 区分	内容
医療 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭の問題のため介入していくことが難しい。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 子どもとその保護者は必ず連動して支援する必要がある。子どもだけに対策をしても意味をなさないこと、保護者の反感をかうことすらあるから。(20代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 専門職同士でも、危機感の捉え方が異なったり、知識にバラツキがあったり、同じ現象について話していても言葉に温度差を感じてしまう。この問題に対する予算が少ない。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 子どもに直接支援ができるとはかぎらず、親の了解を得る必要がある。親に介入を拒まれる場合もある。経済的な支援をしても親がタバコや酒、パチンコ、ギャンブルに散財するばかりで、結局子どもへの支援につながらないこともある。(40代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 問題が顕在化しにくく、取り組み始めるまでに時間がかかる。(20代男性、千葉県勤務)</li> </ul>

- 職場で連携している地域や行政等の関係者・関係機関

職場で連携している地域や行政等の関係者・関係機関は、「区市役所・町村役場の児童福祉・母子保健等の担当部署」が51.2%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員」が48.8%、「児童相談所」が45.6%となっている。一方で「地域とも行政等とも連携していない」が1割強である。

職務区分別にみると、小学校関係者、中学校関係者では「民生委員・児童委員」（小学校関係者69.4%、中学校関係者72.9%）、「区市町村の教育委員会」（小学校関係者48.4%、中学校関係者52.9%）の割合が高い。高校関係者では、「地域のNPO等の民間団体」（18.5%）の割合が高いが、一方で、「区市役所・町村役場の児童福祉・母子保健等の担当部署」（37.0%）や「民生委員・児童委員」（20.4%）、「区市町村の教育委員会」（16.7%）の割合は少ない。また、幼稚園教諭・保育士・保健師、高校関係者では「地域とも行政等とも連携していない」がそれぞれ2割を超えている。

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

図表77 職場で連携している地域や行政等の関係者・関係機関（複数回答）

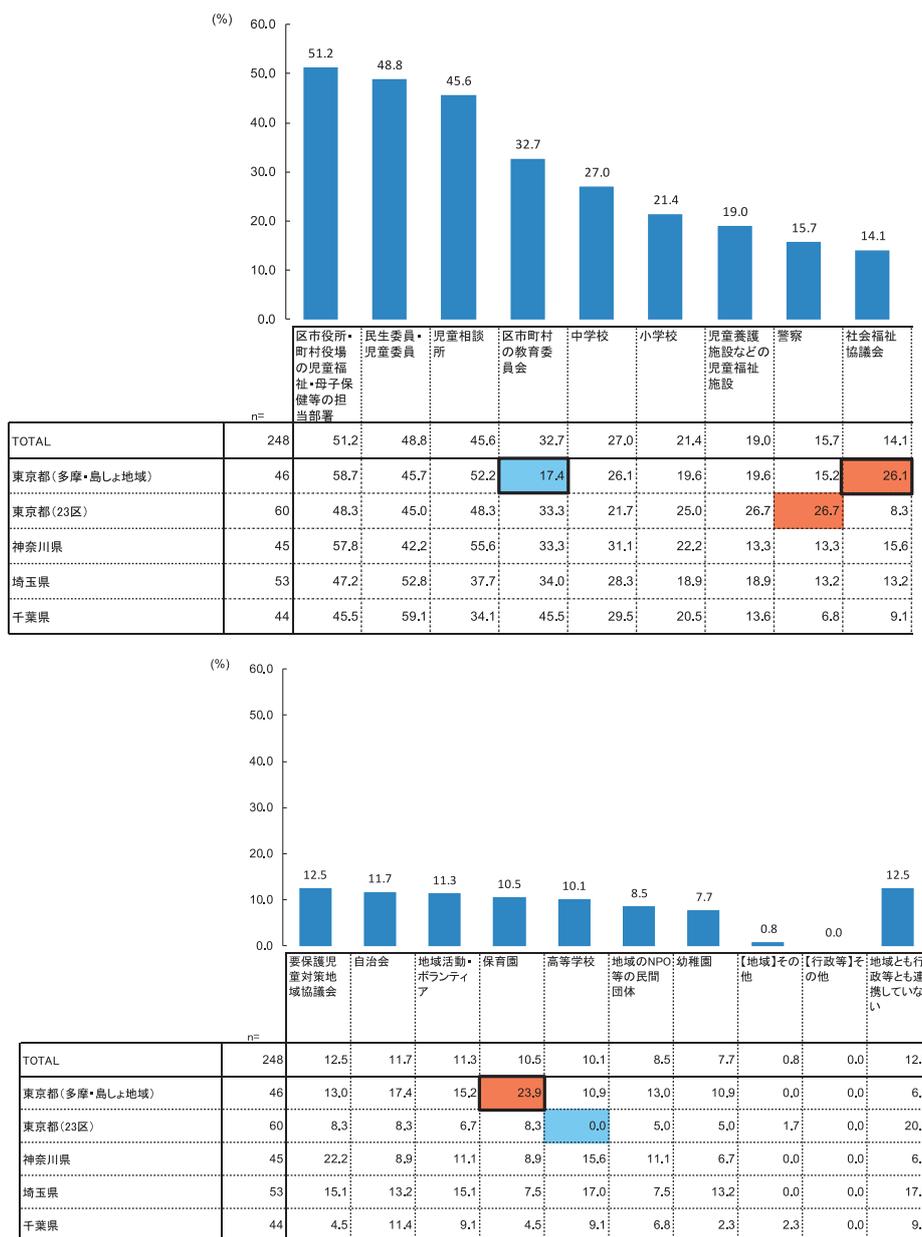


※ ベース：「『子どもの貧困』の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場で、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」と回答

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

勤務先の自治体別にみると、東京都（多摩・島しょ地域）では「社会福祉協議会」が26.1%、「保育園」が23.9%と高く、「区市町村の教育委員会」が17.4%と低い。なお、「保育園」の割合が高いのは、回答者の属性として「幼稚園教諭・保育士・保健師」の割合が高く、また、「教育委員会」の割合が低いのは、回答者の属性として「小学校関係者」「中学校関係者」の割合が低い（P.89、図表58）ことが要因の1つと考えられる。

図表78 職場で連携している地域や行政等の関係者・関係機関（勤務先別）（複数回答）



※ ベース：「『子どもの貧困』の問題が取り上げられていることを見聞きしたことがあり、実際に自分の職場で、貧困の状況にある（またはあると思われる）子どもを把握している」と回答

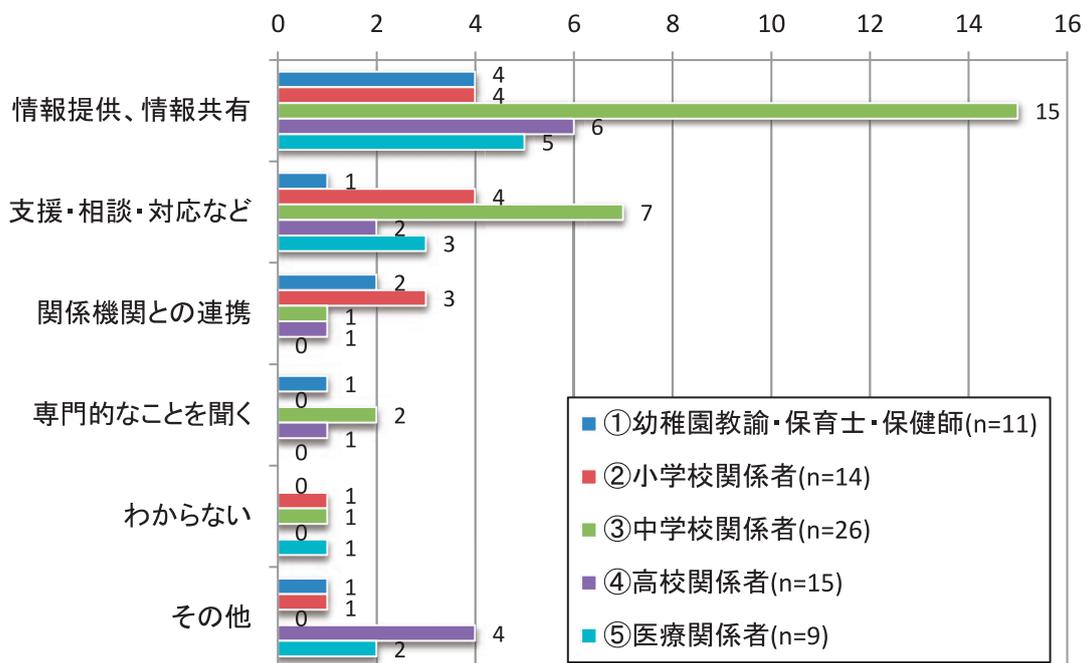
● 行政等や地域との連携内容、連携上の課題

(1) 連携内容

行政等との連携内容について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「情報提供、情報共有」に関する事項が最も多く、「支援・相談・対応など」に関する事項が続く。「情報提供、情報共有」に関する事項は「中学校関係者」で多く挙げられている。

図表79 連携内容【行政等】（自由回答を分類）



行政等との連携内容について、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

図表80 連携内容【行政等】(特徴的な自由回答の例示)

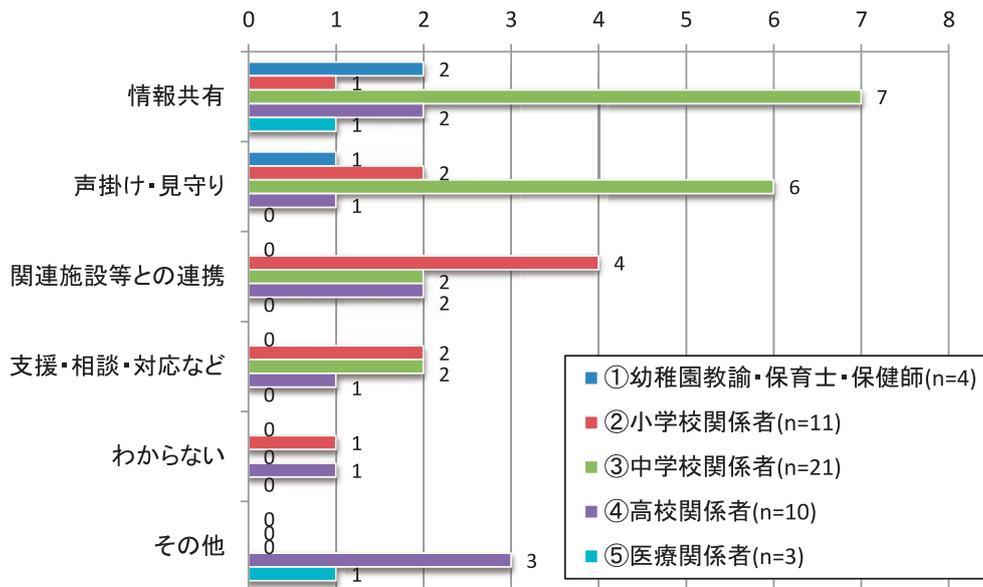
職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報共有。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 報告連絡。(40代女性、神奈川県勤務)</li> </ul>
小学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スクールソーシャルワーカーを派遣してもらう。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 支援策についてのケース会議や情報提供。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 要保護児童地域対策協議会での情報共有。(40代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
中学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育相談を中心としたフォロー。(50代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 支援が必要そうな生徒について相談をし適宜情報をもらう、また、行政が関わっているケースについて行政からも様子を見てもらう。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 関係機関との情報の共有。(40代男性、千葉県勤務)</li> </ul>
高校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門施設との連携。(50代男性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 中学校との情報共有。(20代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 学校に来て、生徒の様子を観察してもらう。生徒、保護者の行政での相談。学校と行政での情報交換。(20代女性、神奈川県勤務)</li> </ul>
医療 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報の提供、必要があれば保護してもらう。(20代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 助産師として産後ケアで担当した方について気になる点があれば、市役所の保健師へ報告する。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 虐待、ネグレクトか疑われるケースへの対応を児童相談所に求める。(40代男性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

また、地域との連携内容について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「情報共有」に関する事項が最も多く、「声掛け・見守り」、「関連施設等との連携」と続く。「情報共有」に関する事項と「声掛け・見守り」に関する事項については「中学校関係者」で多く挙げられている。

図表81 連携内容【地域】（自由回答を分類）



地域との連携内容について自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

図表82 連携内容【地域】（特徴的な自由回答の例示）

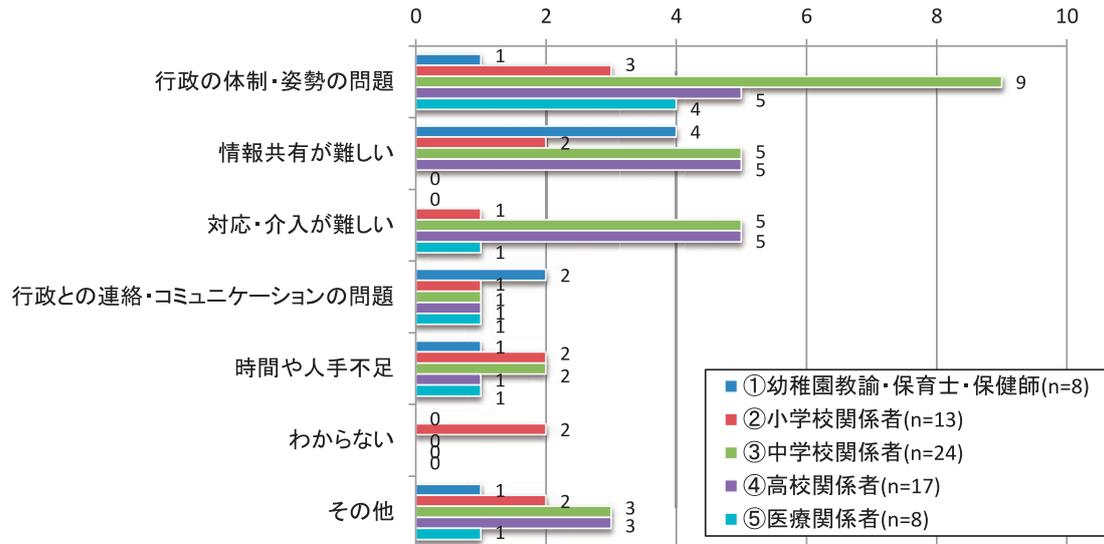
職務区分	内容
幼稚園教諭 保育士 保健師	● 周りの方へ子どもに変化がある時は、すぐに知らせてもらう。(50代女性、東京都（多摩・島しょ地域）勤務)
小学校関係者	● 主任児童委員、民生委員との連絡会。(20代女性、埼玉県勤務)
中学校関係者	● 家庭状況の見守り。(30代女性、神奈川県勤務) ● 情報の共有。(30代男性、埼玉県勤務)
高校関係者	● 生活全般の相談支援。(50代男性、神奈川県勤務) ● 情報共有と声かけ。(20代男性、埼玉県勤務) ● 地域のイベントに参加。(30代男性、埼玉県勤務) ● 児童養護施設との連携。(50代女性、千葉県勤務)
医療関係者	● (特筆すべき回答なし)

(2) 連携上の課題

行政等と連携する上での課題について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「行政の体制・姿勢の問題」に関する事項が最も多く、「情報共有が難しい」、「対応・介入が難しい」が続く。「行政の体制・姿勢の問題」に関する事項は、特に「中学校関係者」で多く挙げられている。

図表83 連携上の課題【行政等】(自由回答を分類)



行政等と連携する上での課題について、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

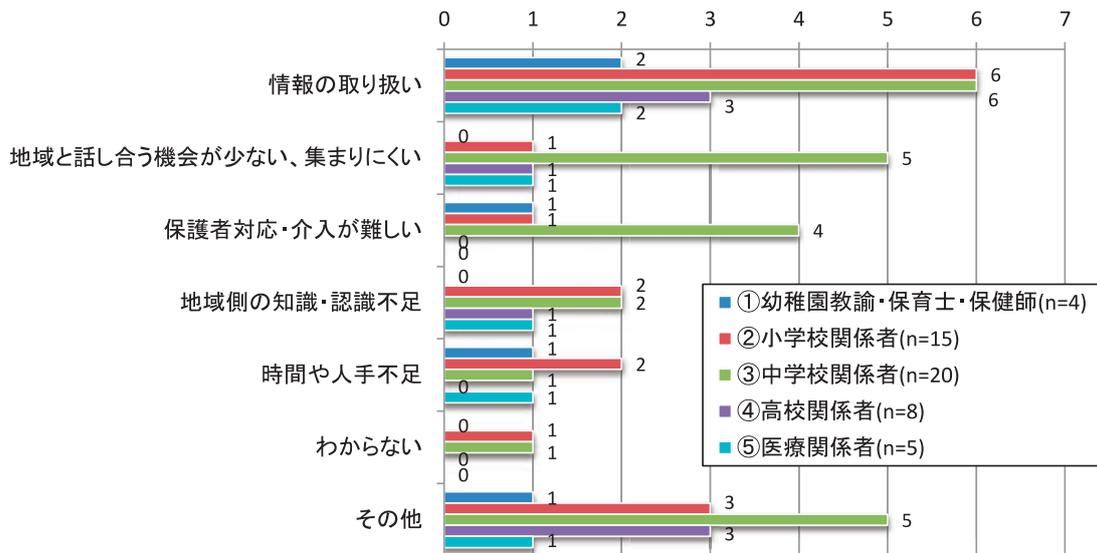
図表84 連携上の課題【行政等】(特徴的な自由回答の例示)

職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担当者が異動等でいなくなってしまう。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 学校は、何でも個人情報とくくらずに小さな事も話して欲しい。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 情報の共有化。(40代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 頻繁に連絡がとりづらい。(30代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
小学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な改善方法に乏しい。(50代男性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 行政も手一杯になっている。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 頻繁に集まらない、状況が簡単には変わらない。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 個人情報の扱い。(30代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
中学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 抱えているケースが多く、希薄になりがち。(50代男性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 時間が合わない。役所の方が先に終わってしまう。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 情報交換が定期的にはできていないため、それができるとよいと感じる。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 行政側の人手不足。(40代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 学校現場の理解が足りない。(30代男性、千葉県勤務)</li> </ul>
高校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 至急学校を訪問してほしい場合でも、行政とのスケジュールが合わず先延ばしになってしまうことがある。行政に足を運んでもらうことが難しい。(20代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 個人情報の保護。(30代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 学校と行政とのコミュニケーションが少ない。(30代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● どのタイミングで連携するか、見極めが難しい。(40代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
医療 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保健師が報告を受けて実際動いてくれるかは、その保健師によるところがあるので、きちんと対応してもらえるかまでこちらは把握しづらい。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● おそらく、親が介入を拒否してしまうとそれ以上踏み込めないのが課題になっているような気がする。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>

また、地域と連携する上での課題について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「情報の取り扱い」に関する事項が最も多く、「地域と話し合う機会が少ない、集まりにくい」が続く。「情報の取り扱い」に関する事項は「小学校関係者」と「中学校関係者」で多く挙げられている。

図表85 連携上の課題【地域】（自由回答を分類）



地域と連携する上での課題について、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

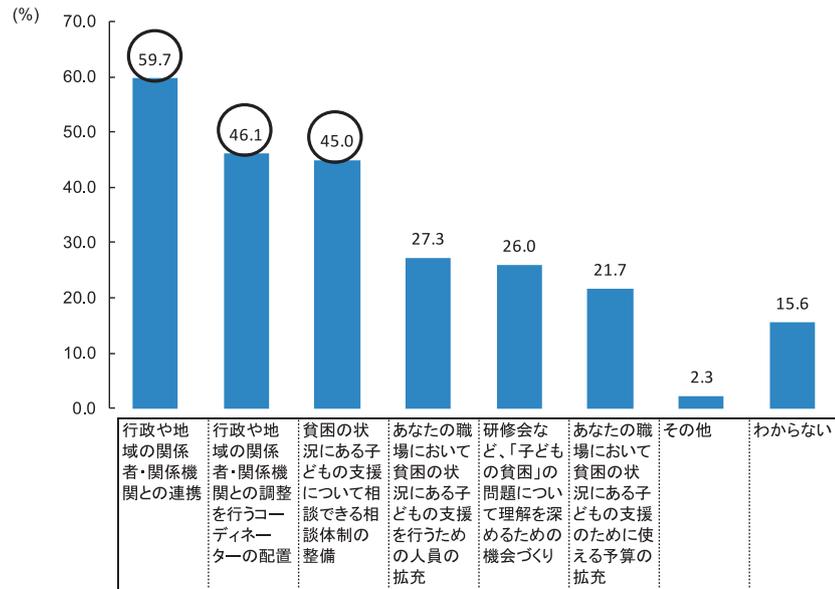
図表86 連携上の課題【地域】(特徴的な自由回答の例示)

職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伝えられることが限られる。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 個人情報の関係で、伝えられることが限られてしまう。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 情報の共有化。(40代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 人材育成。(30代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
小学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担当者が変わるとアプローチしにくい。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 個人情報の扱い。(30代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 通常業務で忙しく、時間がとれない。(20代女性、千葉県勤務)</li> </ul>
中学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仕事をしている人との集まりが多いので、夜の会議になりがち。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● プライバシー尊重で当該家庭に地域として関わりにくい。(60代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 話し合う機会が少ない。(20代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 自治会長などはお年寄りが多いので、問題提起しても理解が得られにくい場合がある。(60代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 学校側の窓口のせまさ。(30代男性、千葉県勤務)</li> <li>● 個人情報の保護。(40代男性、千葉県勤務)</li> </ul>
高校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導についてのノウハウが少なく、深い知識が足りない。(30代男性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 地域により対応が異なる。(50代男性、神奈川県勤務)</li> <li>● 地域でできることに限界があると感じている。(20代男性、埼玉県勤務)</li> <li>● 地域と学校とのコミュニケーションが少ない。(30代男性、埼玉県勤務)</li> </ul>
医療 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報を提供しても連携をとる姿勢が見られない場合がある。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 専門職と一般の方との間に知識の差がある。(20代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 人員不足。(40代女性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>

● 支援を行う上で有効な取組

貧困の状況にある子どもへの支援を行う上で有効な取組として、「行政や地域の関係者・関係機関との連携」が59.7%と最も高く、次いで「行政や地域の関係者・関係機関との調整を行うコーディネーターの配置」が46.1%、「貧困の状況にある子どもの支援について相談できる相談体制の整備」が45.0%となっている。

図表87 有効な取組（複数回答）

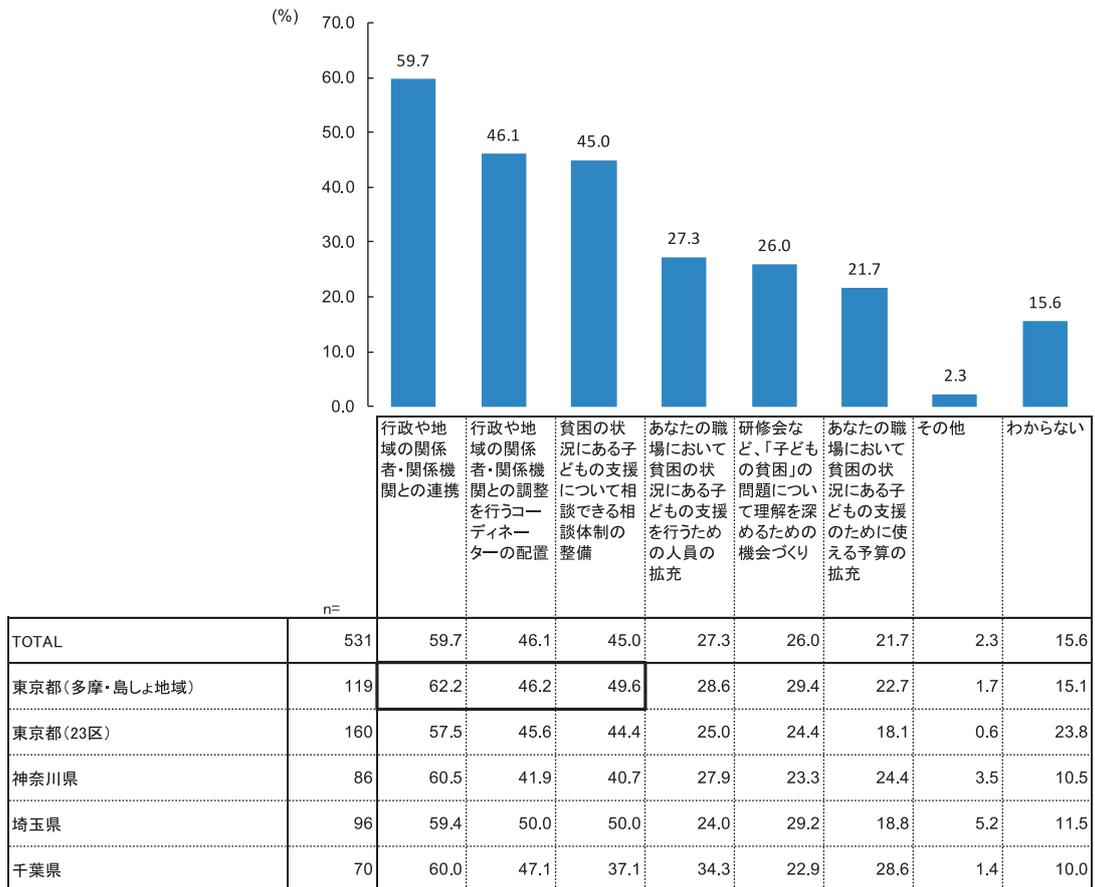


	n=	行政や地域の関係者・関係機関との連携	行政や地域の関係者・関係機関との調整を行うコーディネーターの配置	貧困の状況にある子どもの支援について相談できる相談体制の整備	あなたの職場において貧困の状況にある子どもの支援を行うための人員の拡充	研修会など、「子どもの貧困」の問題について理解を深めるための機会づくり	あなたの職場において貧困の状況にある子どもの支援のために使える予算の拡充	その他	わからない
TOTAL	531	59.7	46.1	45.0	27.3	26.0	21.7	2.3	15.6
①幼稚園教諭・保育士・保健師	106	60.4	41.5	48.1	25.5	31.1	18.9	1.9	19.8
②小学校関係者	107	59.8	47.7	41.1	33.6	19.6	27.1	2.8	15.0
③中学校関係者	106	61.3	50.9	42.5	34.0	20.8	25.5	0.9	12.3
④高校関係者	103	61.2	44.7	45.6	29.1	28.2	26.2	5.8	7.8
⑤医療関係者	109	56.0	45.9	47.7	14.7	30.3	11.0	0.0	22.9

### 第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

勤務先の自治体別にみると、東京都（多摩・島しょ地域）では、「行政や地域の関係者・関係機関との連携」（62.2%）や「行政や地域関係者・関係機関との調整を行うコーディネーターの配置」（46.2%）、「貧困の状況にある子どもの支援について相談できる相談体制の整備」（49.6%）が上位に挙げられた。

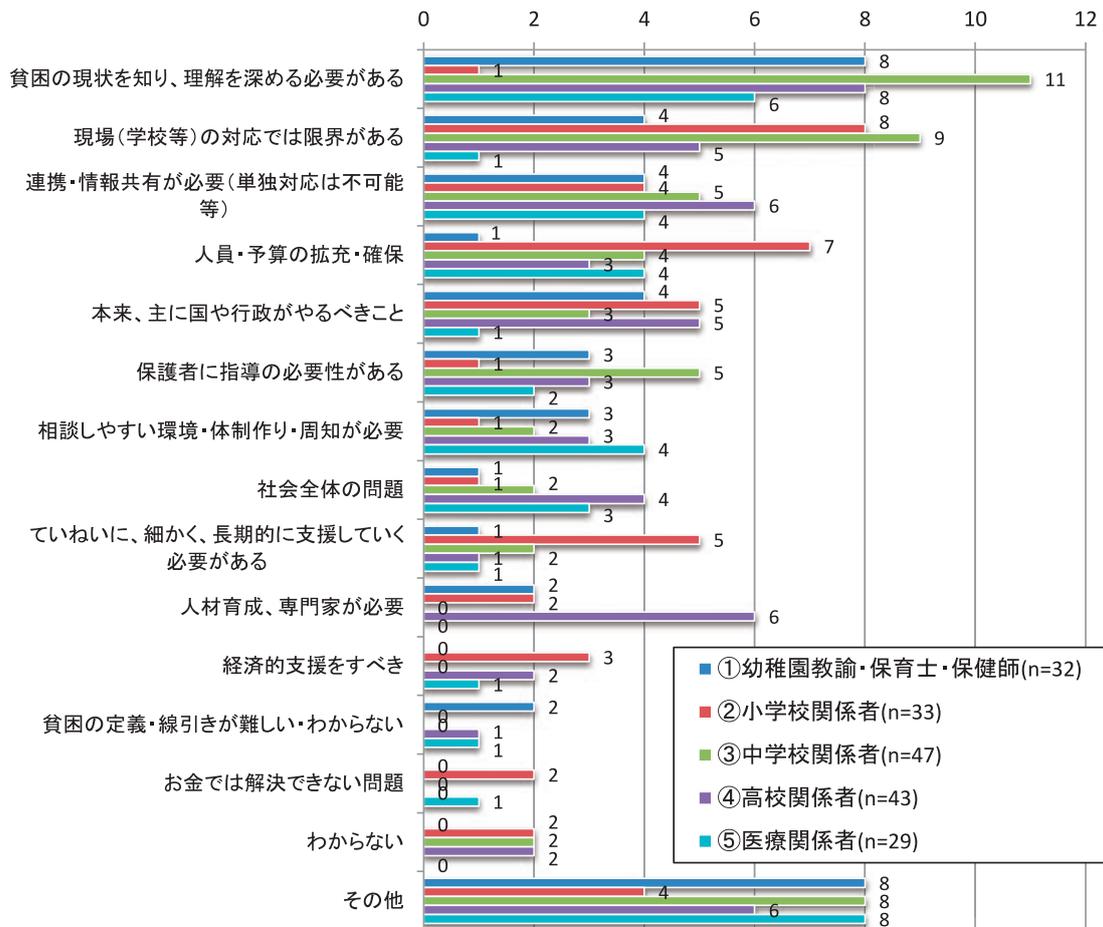
図表88 有効な取組（勤務先別）（複数回答）



また、取組が有効だと思う理由について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「貧困の現状を知り、理解を深める必要がある」に関する事項が最も多く、次いで「現場（学校等）の対応では限界がある」、「連携・情報共有が必要（単独対応は不可能等）」「人員・予算の拡充・確保」が挙げられた。

図表89 有効だと思う理由（自由回答を分類）



取組が有効だと思う理由について、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を表に示す。

図表90 有効だと思う理由（特徴的な自由回答の例示）

職務区分	理由	支援を行う上で有効な取組 <sup>74</sup>						
		関係者・機関との連携	コーディネーター配置	相談体制の整備	人員の拡充	理解を深める機会づくり	予算の拡充	その他
幼稚園教諭・保育士・保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今の職場には、環境的に裕福な家庭が多いので、若い職員にはなかなか理解しづらいと思う。(40代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> </ul>					○		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実態を把握し、貧困の原因を追求する必要がある。子どもの貧困とは、子どもだけが貧困になるわけではなく、家庭(親)が貧困であることをきちんと認識しなければならない。貧困といいながら、携帯電話、スマートフォン等を所有していることに疑問を感じることもある。子どもの貧困というと、子どもだけの問題になりがちだと思う。子どもの貧困を、社会の問題と捉えるか、個人の問題とするかは、行政も一緒に考え取り組むべきと思う。(50代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> </ul>	○	○	○		○		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現場だけでできることには限りがあり、根本的解決には繋がらない。現場のケアもちろん大事だが、地域、家庭を支援することが大事だと思う。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>	○		○				

74 図表87 (P.123)、図表88 (P.124) で挙げられた有効な取組として該当する項目に、「○」をつけている。

職務区分	理由	支援を行う上で有効な取組 <sup>74</sup>						
		関係者・機関との連携	コーディネーター配置	相談体制の整備	人員の拡充	理解を深める機会づくり	予算の拡充	その他
	● まずは行政に把握してもらい、どんな支援ができるのか自分たちが考える。(30代女性、東京都(23区)勤務)			○				
	● どのぐらいの現状で貧困があるのか、どういった背景があるのかを正しく理解する必要がある。むやみやたらにかき回していいことではないと思うから。(20代女性、神奈川県勤務)	○				○		
	● 行政・市と提携していれば、未就学児が卒園した後も小学校へ引き継ぐことができるから。(30代女性、埼玉県勤務)	○	○	○		○		
	● 幼稚園保育園など保育施設のスタッフは子どもの貧困を見極めるのが難しいと感じるし、実際に身近に動いている人を知らないの、具体的な対策として自治体と保育施設との間にコーディネーターがついたほうがいいと思うから。(40代女性、埼玉県勤務)		○			○		
小学校関係者	● 金銭的な支援だけでは根本的な解決にならないと思うから。(20代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)	○		○				
	● 学校現場では子どもへの支援はできても、家庭への支援は仕事の範囲を越える事になり兼ねないので。(30代男性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)	○	○	○		○		
	● 時間的に余裕がないので、じっくり子どもの話を聞いたり対応してくれる人材が欲しい。(20代女性、東京都(23区)勤務)	○			○			
	● 支援を受ける手段を知らない家庭が多いのではないかと考える。(50代男性、東京都(23区)勤務)	○	○	○			○	

第3章 子どもに関わる現場関係者から見た子どもの貧困

職務 区分	理由	支援を行う上で有効な取組 <sup>74</sup>						
		関係者・機関との連携	コーディネーター配置	相談体制の整備	人員の拡充	理解を深める機会づくり	予算の拡充	その他
	● 現在の公立学校の組織、人員では貧困対策に対応できない。まず専門性のある人材が必要。(50代男性、東京都(23区)勤務)	○	○	○	○			
	● 保護者との協力が必須なので、時間をかけて丁寧にかかわることのできる人材か余裕が必要なため。(30代女性、神奈川県勤務)		○					○
	● 学校現場からのアプローチだけでは対応できないので行政との連携は必要だと思うから。(30代女性、神奈川県勤務)	○	○				○	
	● 学校は子どもの貧困を発見することには力を発揮できると思うが、解決するには行政の手がどうしても必要だから。(50代女性、神奈川県勤務)	○	○	○				
中学校関係者	● 教員が子どもの貧困について考える機会があまりないので、研修等行うことで、少しでも考える機会が増えると思うから。(30代女性、神奈川県勤務)	○		○		○		
	● 民生委員や地域の方とは話し合う機会があるが、なかなか行政の方と話し合う機会がないため。(20代女性、埼玉県勤務)	○						
	● 今は個人が優先され、地域の関わりが稀有になってきている。なかなか家庭の中まで入れない。もっと地域の皆が関わることだと思う。(60代女性、埼玉県勤務)	○	○	○		○		
	● 主で担当する職員がいれば、きめ細やかで迅速な対応が可能であるが、実際は別の仕事に捕らわれており、なおかつ支援業務は増え続けている現状がある。(40代男性、千葉県勤務)							○

職務 区分	理由	支援を行う上で有効な取組 <sup>74</sup>					
		関係者・ 機関との 連携	コー ディネー ター配 置	相 談体 制の 整備	人 員の 拡充	理 解を 深め る機 会づ くり	予 算の 拡充
	<ul style="list-style-type: none"> <li>いくら金銭面の支援があっても親の生活費に使われて、子どもが学校で惨めな思いをするのは心苦しい。せめて学校で生活する期間にかかるお金は子どもの為に使われてこそ価値があると思う。(40代女性、千葉県勤務)</li> </ul>				○	○	○
高校 関係 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任が抱えがちだが、生徒の状況を把握している教員を増やすことで、担任の負担の軽減、生徒が話を出来る機会を増やすことが出来る。教育相談コーディネーターを増員し、外部との連携や、学校での情報共有を活発に行いたい。(20代女性、神奈川県勤務)</li> </ul>	○	○	○		○	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人や個々の学校で出来る事には人的経済的にも限界があり、また、個々人の良心によるボランティアになりがちだから。(40代女性、神奈川県勤務)</li> </ul>	○	○	○			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の状況が異なるので、きめ細かい個別相談及び対応が必要だから。(50代男性、神奈川県勤務)</li> </ul>		○		○		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>親と、周囲の大人たちの意識の改革が必要だと思う。貧困という定義にも個人差があるので、共通理解を深める場が必要だと思う。(60代男性、神奈川県勤務)</li> </ul>	○	○	○			

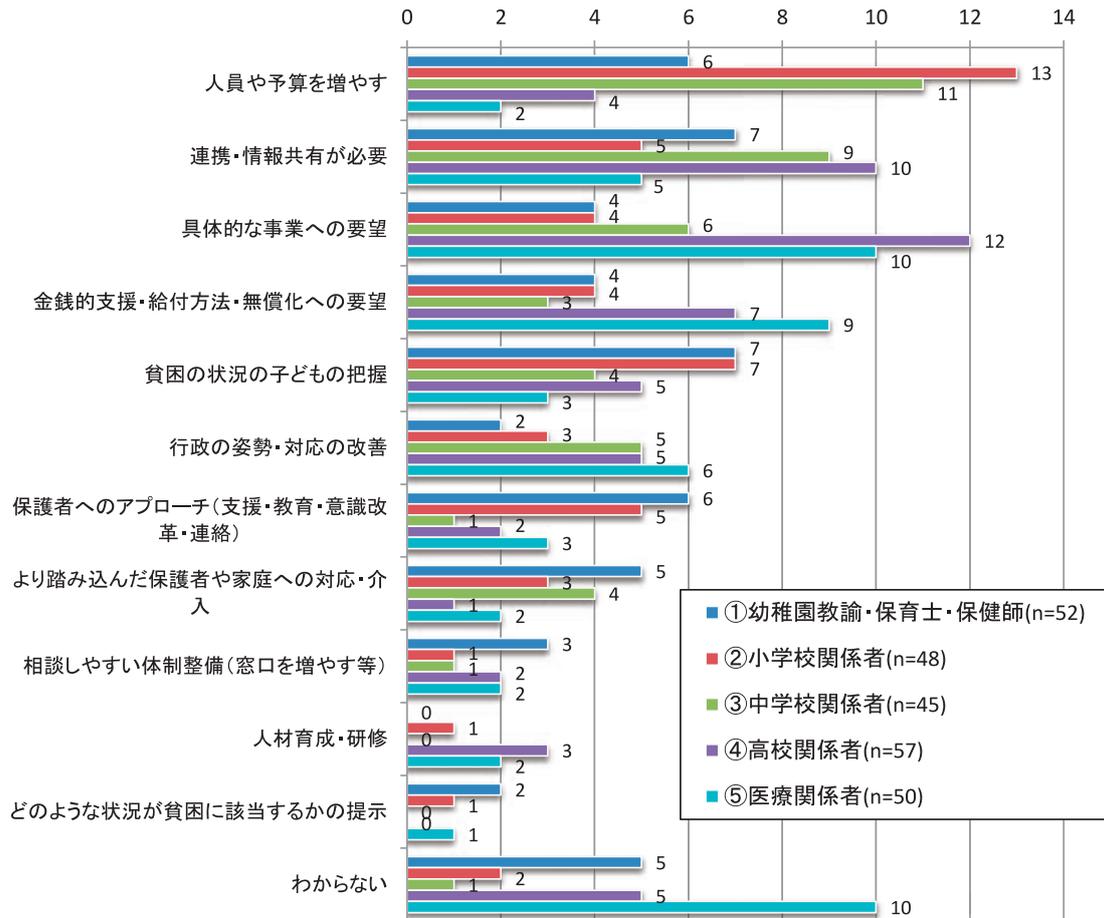
職務区分	理由	支援を行う上で有効な取組 <sup>74</sup>						
		関係者・機関との連携	コーディネーター配置	相談体制の整備	人員の拡充	理解を深める機会づくり	予算の拡充	その他
医療関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常業務に追われ、発見しても早期に介入出来なかったり連携が不十分である。(20代女性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>	○	○	○	○	○		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困な状況の子どもがいるとわかった場合、どこにどのように連絡すればいいかわからないため、まずはそういった子どもと接点を持ちやすい環境にいる大人に対して、知識の啓発をすることが重要だと思うから。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>	○	○	○		○		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実際に動くためのお金と人材がなければ、なにもできない。貧困問題には、様々な問題が絡んでおり、子どもへの連鎖を防がなければならない。今この瞬間を助けるだけでなく、長期的に自立と自律を目指さなければならない。関わるスタッフも、精神的に余裕が持てるような報酬をもらわないと問題解決へのモチベーションが下がる。誰もができる仕事ではなく、本当にこの問題をどうにかしようとする人が携わるべきである。それぞれを解決していくには、現実的な予算と人材が必要。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> </ul>	○	○			○	○	

● 行政や地域の取組等に対する要望

行政や地域の取組等に対する要望について、自由回答で尋ねた。回答内容を分類した結果を下図に示す。

「人員や予算を増やす」に関する事項が最も多く、次いで「連携・情報共有が必要」、「具体的な事業への要望」が挙げられた。

図表91 行政や地域の取組等に対する要望（自由回答を分類）



行政や地域の取組等に対する要望について、自由回答で尋ねたなかで、特徴的な自由回答を下表に示す。

図表92 行政や地域の取組等に対する要望（特徴的な自由回答の例示）

職務区分	内容
幼稚園 教諭 保育士 保健師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者の就労・収入の把握をして、行政から面談など働きかける。(30代男性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 貧困の状況の指標が分からない。「貧困」と言えば貧困になるのか。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 子どもに直接支援を行うことはもちろんだが、親のケアも重要だと思う。(30代女性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 縦の行政や役割でなく、柔軟な対応のできる部署の設置。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 貧困家庭の正確な状況把握と、教育機関への情報開示などの連携。(30代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 保健師など健診に来る乳幼児を見ているスタッフが簡単な面接などで子どもの生活のある程度把握し、また、保育施設との間にコーディネーターを配置して連携を密に取る必要があると思う。(40代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
小学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政から情報を教えていただかないと、動きにくい。各家庭の情報共有の意思を確認した上で行政から現場に情報を伝えてもらえると、共に支援できる。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 生活保護を受けている父子家庭への支援・援助があるといい。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 今や学校はサービス業と化している。保護者は何でもしてくれる、立場は自分たちの方が上なのだから学校がやってくれて当たり前と言う。家庭で教えるべき事まで学校に要望してくる。とにかく時間がない。こなしてもこなしても仕事が降ってくる。純粋に子どものために使える時間がほしい。周りには病んで辞めていく人も珍しくない。教師も人間なので、弱音を吐かせてもらえる場所がほしい。(30代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 子どもの支援にはまず親の経済の安定から。就労支援・産業の振興を望む。(50代女性、神奈川県勤務)</li> <li>● 貧困の理由を行政にしっかり見極めてほしい。親の能力に合った就労間口が広がればと思う。(30代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>
中学校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● もっと、家庭の生活状況の調査など、教員にはできていない範囲の仕事を代わりにやってほしい。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 要保護、準要保護家庭の把握を、教員が容易にできる仕組みづくりや、対応の過程の共有ができるとうい。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 定期的に学校管理職と担任、養護教諭やカウンセラー等と行政の担当の方とで情報交換の場を設けられるとういと感じる。(20代女性、埼玉県)</li> </ul>

職務 区分	内容
	<p>勤務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援業務は、市役所で一括して行い、窓口も学校から市役所に移すべき。(40代男性、千葉県勤務)</li> <li>● 保護者の要望がなくても、要保護の申請ができる制度作り、中学校区ごとにスクールソーシャルワーカーの積極的配置など。(50代女性、千葉県勤務)</li> </ul>
高校 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困状況の把握。(50代男性、東京都(多摩・島しょ地域)勤務)</li> <li>● 個人情報保護に当たり難しいと思われるが、該当生徒が誰か知らせてほしい。校内サポートもできるようにするため。(30代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 金銭的な援助をする場合、直接保護者ではなく学校等に払う方がよい。子ども自身が相談できる地域の大人がいるとよい。小学校や中学校など地域の中で生活しているうちに、子どもがどこの誰を頼ればよいか知る機会があるとよい。(40代女性、埼玉県勤務)</li> <li>● 具体例に対する対応策を伝えて欲しい。(40代女性、千葉県勤務)</li> </ul>
医療 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仕事をしていて思うのは、同じ役所内でも母子保健担当と福祉担当で連携がとれていないことが多々ある。担当者同士のコミュニケーションの悪さで、子どもが救われないという状況も見受けられる。マニュアルや研修会などそれ以前に、問題解決に携わる人と人のコミュニケーションが弊害になるのは問題である。(30代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 給付は現物支給で。保護者が給付金を別目的で使用しないように見届ける仕組みも必要。(40代男性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● 現金でなく、現物支給にするなど、確実に子どもに渡るような支援方法を検討してほしい。(40代女性、東京都(23区)勤務)</li> <li>● まずは貧困の状況にある子どもがどこにどれだけ存在するのかを把握することが第一歩。そして、NPO法人とも連携して、小規模でもいいので身近に気軽に相談できる場所をたくさん設置し、個々にあわせた細やかな支援をしてほしい。金銭的な支援を行えばそれでよいというものではなく、子どもたちが安心して集える場所が必要だと思う。(50代女性、埼玉県勤務)</li> </ul>